

令和2年度 むらネット九州

(豊かなむらづくりをめざして)



農林水産省
九州農政局

目 次

令和2年度 農林水産祭むらづくり部門

令和2年度（第59回）農林水産祭むらづくり部門受賞	1
---------------------------------	---

三賞受賞の概要

天皇杯

・高根フロンティアクラブ（新潟県 村上市）	2
-----------------------------	---

内閣総理大臣賞

・湯原集落協定（宮城県 七ヶ宿町）	2
-------------------------	---

日本農林漁業振興会会長賞

・農事組合法人 ゆめ野山（奈良県 五條市）	3
-----------------------------	---

受賞団体(九州ブロック)の紹介

農林水産大臣賞

・田舎の体験交流館さんがうら運営委員会（熊本県 球磨村）	4
付記）令和2年7月 熊本豪雨災害～被害の爪痕と復興への歩み～	10
・一里山地区ふるさとづくり推進協議会（宮崎県 宮崎市）	11
・高田村づくり委員会（鹿児島県 南九州市）	17

九州農政局長賞

・やったろう de 高島（長崎県 長崎市）	23
-----------------------------	----

豊かなむらづくり全国表彰事業

「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」	27
--------------------------------	----

むらづくり部門のこれまでの三賞受賞一覧	28
---------------------------	----

九州ブロックのこれまでの県別受賞一覧

福岡県	29
佐賀県	30
長崎県	31
熊本県	32
大分県	33
宮崎県	34
鹿児島県	35

施策情報

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」を選定	36
-----------------------------	----

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第7回選定結果）	36
-----------------------------------	----

九州農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定結果	37
-------------------------------	----

全国選定団体の紹介	37
-----------------	----

令和2年度(第 59 回)農林水産祭むらづくり部門受賞

天皇杯	高根フロンティアクラブ（新潟県 村上市）
内閣総理大臣賞	湯原集落協定（宮城県 七ヶ宿町）
日本農林漁業振興会会長賞	農事組合法人ゆめ野山（奈良県 五條市）

令和2年度（第59回）農林水産祭における受賞者が10月7日に決定し、むらづくり部門では、豊かなむらづくり全国表彰事業の農林水産大臣賞受賞団体の中から、天皇杯等の三賞受賞が決定しました。

三賞受賞の評価ポイント

天皇杯 高根フロンティアクラブ（新潟県 村上市）

村上市高根地区は、新潟県北部に位置する特定農山村地域・振興山村地域・過疎地域・特別豪雪地帯に指定される山間農業地域です。小学校の廃校や農業後継者の減少等集落の存続が危ぶまれる状況から、自分たちの手で地域の自然を守り、自ら地域を変えていこうとする集落の有志により、同クラブは設立されました。本取組みは、都市と農村の交流の場作りにより他地域からの住民の移住に成功している事例であり、若い世代を含む住民が地域の課題を共有し、納得したうえで自発的に活動し効果をあげている点が評価されました。

内閣総理大臣賞 湯原集落協定（宮城県 七ヶ宿町）

七ヶ宿町は、宮城県南西部、山形・福島両県境に位置する県内有数の豪雪地帯で、山林が9割以上を占める山間地域です。主産業は農業ですが、世帯数減少や高齢化による後継者不足で、将来的な農地の維持管理と集落機能の維持が危惧される状況にありました。本取組みは、地域の課題に対し内外からボランティアを募る仕掛けづくりに成功している事例であり、条件不利な山間地域にあって集落の課題解決を関係人口の増加に結びつけながら、各組織連携し合って農地と生活の基盤を管理している点が評価されました。

日本農林漁業振興会会長賞 農事組合法人ゆめ野山（奈良県 五條市）

五條市は奈良県の南西部に位置し、同市山陰町とその近隣集落は中山間地域に位置しています。農機具の更新費用増加や後継者不足等の営農問題に対し、安定した農業経営を目指すため、山陰町を中心とした5集落により法人を設立しました。本取組みは、農事組合法人による集落営農を核としたむらづくりに成功している事例であり、担い手経営体としての生産販売機能と農地などの地域資源の管理や環境保全機能等、公益的な機能を5つの集落で実現し集落の活性化に寄与している点が評価されました。

※三賞受賞団体の取組概要等は、P2～3に記載

令和2年度豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞受賞団体

受賞団体名	所在地	受賞団体名	所在地
特定非営利活動法人美しい村・鶴居観光協会	北海道 鶴居村	農事組合法人ゆめ野山	奈良県 五條市
ゆのほう 湯原集落協定	宮城県 七ヶ宿町	中部環境保全活動の会	兵庫県 宝塚市
まちした 町下地区集落営農実践会議	山形県 白鷹町	宇治雑穀研究会	岡山県 宇治町
なかあらい 中荒井区	福島県 南会津町	高野地集落	愛媛県 八幡浜市
ふじさん 富士山集落活性化協議会	群馬県 川場村	吉延営農組合	高知県 本山町
特定非営利活動法人おおつきエコビレッジ	山梨県 大月市	田舎の体験交流館さんがうら運営委員会	熊本県 球磨村
特定非営利活動法人せんがまち棚田倶楽部	静岡県 菊川市	一里山地区ふるさとづくり推進協議会	宮崎県 宮崎市
たかね 高根フロンティアクラブ	新潟県 村上市	高田村づくり委員会	鹿児島県 南九州市
たじみさんづ 多治見三郷活性化協議会	岐阜県 多治見市		

天皇杯受賞

高根フロンティアクラブ（新潟県 ^{むらかみし}村上市）

～若者の目もキラキラ 世代を超えて自発的に取り組むむらづくり～

むらづくり組織の概要

高根フロンティアクラブは、20～60 歳代の地区の有志 43 名で構成されており、地域外への情報発信及び地域内外の交流促進の役割を持つ組織である。地区内の他組織と連携・合同で事業を実施しているほか、地域外の応援団とも連携して地域活性化に取り組んでいる。また、同クラブの活動が刺激となり、平成 28 年に 40 歳代以下の若手が「(一社) 高根コミュニティラボわあら」を立ち上げ、むらづくり活動を展開している。



むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ①棚田の耕作状況調査等を通じ、後継者育成や米作りサポートなどの耕作支援と直接販売の販路拡大支援の両面が重要であるとの考えに至り、棚田米の販売や稲作サポートを組み合わせた「準村民制度」の創設に向けて活動している。
- ②廃校を利用した農家レストラン「IRORI」では地元産そば粉 100%の手打ちそばが好評であり、校舎内の加工場で生産したどぶろくなど 6 次産業化にも取り組んでいる。
- ③東京都墨田区の商店街との交流により、棚田米や新たに開発した特産品などを販売する「高根物産展 山里の収穫祭」が開催され新しい販売の流れになっている。

(2) 生活・環境整備面

- ①地域の課題を整理し、10 年後を見据えた「たかね みらいづくりビジョン」を活動方針として決定。ビジョンの柱の 1 つを「新しい寄り合いづくり」とし、空き家を活用した集落の人が手軽に集える場と機会を提供。集落の子供の勉強や遊び場、高齢者の介護予防としてのお茶のみ場づくりに意欲的に取り組んでいる。
- ②都会の人が高根の暮らしを体験するなかで交流を深め、地域の担い手を増やすことに繋がる取組みとして、空き家を整備し、体験プログラムの企画・実施を行っている。現在、2 人が定住して農林業の担い手となっている。
- ③首都圏の大学生や企業と連携し、ブナ林・どんぐりの森づくりを行い、学生、社員やその家族が定期的に訪れるようになり、都市との新たな交流を創出。高根に魅せられ、移住する若者や地域おこし協力隊の若者の増加に寄与している。

内閣総理大臣賞受賞

湯原集落協定（宮城県 ^{しちかしゆくまち}七ヶ宿町）

～除雪も駆除も援農も 山間地で関係人口を増加させるむらづくり～

むらづくり組織の概要

湯原自治会の全面的な協力のもと、中山間地域等直接支払交付金の活動母体である湯原集落協定（以下「集落協定」）を中心に、集落の認定農業者、農業法人、多面的機能支払交付金を活用した活動組織である湯原集落農業協力隊（以下「農業協力隊」）及び七ヶ宿町との連携体制により運営されている。

むらづくりの取組概要

(1) 農業生産面

- ①担い手への農地集積を進めるため集落協定を締結し、また、集落内の非農家も参加して農業協力隊を立ち上げ、耕作放棄地の発生防止と多面的機能の維持、鳥獣被害防止対策に取り組み、平成 12 年以降作付面積約 47ha を維持している。米づくりでは、「七ヶ宿町源流



米ネットワーク」が組織化され、土壌改良や水質浄化により、全国食味コンクールで金賞を受賞した良食味米を栽培している。

②播種時期の分散による気象リスクの回避や開花期間中の放蜂による結実率向上を図るなど、そばの栽培方法を工夫し、平均単収 60kg/10a（県平均 22kg/10a）と高収量を実現している。

（２）生活・環境整備面

①ボランティアによる鳥獣害防護柵設置や除排雪により、農地の維持・管理、生活環境を維持している。自治会では、ボランティア募集のチラシづくりや大学等への声かけなどを行い、援農ボランティアの運営等も担っている。集落協定では、来訪するボランティア等と集落住民との交流の場を積極的に作り出すとともに、地区の夏祭り等を通して非農家との交流にも取り組んでいる。

②地元企業社員とその家族が湯原集落を訪問、七ヶ宿源流米ネットワークと共同で農作業体験を行うイベントが開催されている。また、農業法人が町内そば屋とともに「新そばまつり」を開催し、毎年 2,000 人を超える人手で賑わっている。

③集落内非農家は農業協力隊に参加し、農家との協働による集落の維持管理に取り組み、同隊の隊長の任を担っている。女性は景観づくりや交流時における食事提供などに加え、女性中心の自治会組織や女性のみで構成された郷土芸能組織もあり、集落では多くの場で女性の活躍が発揮されている。

日本農林漁業振興会会長賞受賞

農事組合法人ゆめ野山（奈良県 ^{ごじょうし}五條市）

～楽しく農業！ 農業資源をフル活用したむらづくり～

むらづくり組織の概要

（農）ゆめ野山は、山陰町と周辺 4 町の受益農家 64 戸が全員参加の農事組合法人であり、作物の生産・流通・販売、農業施設の維持管理、資源循環型農業を展開。5 集落の地域住民を巻き込み、農地資源、水資源（農業水利）、営農施設、有機性資源、農村コミュニティといった地域の農業資源を一元的に管理している。



むらづくりの取組概要

（１）農業生産面

①法人管理のライスセンターで出荷するブランド米の契約販売、JA との全量播種前契約としている小麦、飼料用米、WCS 及び加工キャベツ、梅農家との契約栽培のシソなど、法人経営の安定化に向けて、流通販売に取り組んでいる。

②地域の用水源である、ため池の取水後の管理・運用を一元的に管理し効率的な用水管理を実施している。

③将来に向け持続可能な農業を実現するため、関係機関と連携し、ドローンによる水稻直播栽培や ICT を活用したスマート農業の実証に取り組んでいる。

④畜産農家から牛糞堆肥を水田農家に提供し、水田農家から WCS や稲わらを畜産農家に提供しており、耕畜連携による有機資源の地域内循環を実現している。

（２）生活・環境整備面

①多面的機能支払交付金を活用し、自治会と連携して水路、ため池の草刈り、住民参加による道路改修、地区の美化活動などを行っている。

②（農）ゆめ野山が主催する田植え後の「さなぶり」、稲刈り後の「収穫祭」は、非農家を含めた地域住民が参加する行事となっており、地元集落の職種や世代を超えた様々な人々の交流の場となっている。また、県法人協会が主催する「農業法人フェア」や市民交流イベント等には積極的に参加し、お米等の収穫物販売を通じて都市住民との交流も深めている。

③「さなぶり」や収穫祭は、（農）ゆめ野山の女性部が企画・運営を担っている。また、女性部は地区の老人会と共同で、水田畦周りや道路脇に花苗の植栽、地区内の子供達との巻き寿司体験会を開催するなど、活躍の場を広めている。

農林水産大臣賞受賞

い な か たいけんこうりゅうかん うんえいいんかい
田舎の体験交流館さんがうら運営委員会

くまむら
(熊本県 球磨村)

～絆でつむぐ廃校活用のむらづくり～

■地域の沿革と概要

球磨村は、熊本県の南部、人吉・球磨地方に位置し、日本三大急流の球磨川舟下り・ラフティング・鍾乳洞「球泉洞」を観光資源とする山村として全国的知名度がある。

村の人口は平成 27 年（2015 年）時 3,698 人で、平成 17 年（2005 年）の 4,786 人から 10 年間で 22.7%減少している。球磨村の総面積約 2 万 800ha のうち、1 万 8,800ha を森林が占め、農林業が主産業である。農業は山間地の急傾斜地にある棚田や段々畑が舞台であり、一戸平均の耕作面積は約 40a で零細・小規模経営農家が多数を占める。林業においても木材価格の低迷によって山村経済の疲弊が長く続いている。



図 1. 位置図

1. むらづくりの動機・背景

(1) 危機に直面した「田舎の体験交流館さんがうら」

村は観光立村を宣言し、その柱の一つとして観光地域づくり戦略を位置づけている。田舎の体験交流館さんがうら(以下「さんがうら」)は、平成 22 年 3 月に閉校した小学校を改築し、三ヶ浦地域のコミュニティ再生とグリーンツーリズムの拠点化を目的として開設された。平成 23 年 7 月にオープンし、村直営の施設としてスタートしたが、初年度から宿泊者・体験者は少なく経営的不振に陥り、スタッフ 3 名の雇用がままならぬ状況下に置かれた。そこで、県の地域づくり交付金事業を活用し、ソフト面を重視した施設運営を計画とした「三ヶ浦地域絆の里づくり計画」(以下「絆の里づくり計画」)を作成し、実行に移していく。

宿泊客増と収入増による経営的立て直しを目指し、県内外の同様の廃校利用施設の視察で学び、春・夏休み利用のグループ・小規模団体客をメインに誘客活動を展開し

地区データ

- | | | |
|-------------------|----------------|-------------|
| ①所在地：熊本県球磨郡球磨村三ヶ浦 | ②地区の規模：11 集落 | ※R2.3.31 現在 |
| ③総人口：537 人 | ④総世帯数：174 戸 | |
| ⑤農家戸数：119 戸 | ⑥主要農産物等：梨・栗・水稻 | |

た。その結果、大学の研修会やサークル活動、小・中・高校や各種団体の合宿・研修の利用を効果的に受け入れ、取組み2年目の平成26年度には黒字に転換し、以後、経営は順調に推移している。

（２）多様な主体が参画する地域づくり計画の策定

「絆の里づくり計画」では、三ヶ浦地域を理想のムラにするために絆の構築が不可欠として、多様な主体による参加・協働型の地域づくりを基軸に据えた。三ヶ浦地域においても、他地域と同様に集落の祭りや伝統行事の継続が危ぶまれていた。計画では地域コミュニティを維持し、地域で暮らす幸福度や生活の質を高め、地域が抱える様々な困りごとや課題を解決するための拠点施設として「さんがうら」を位置づけた。

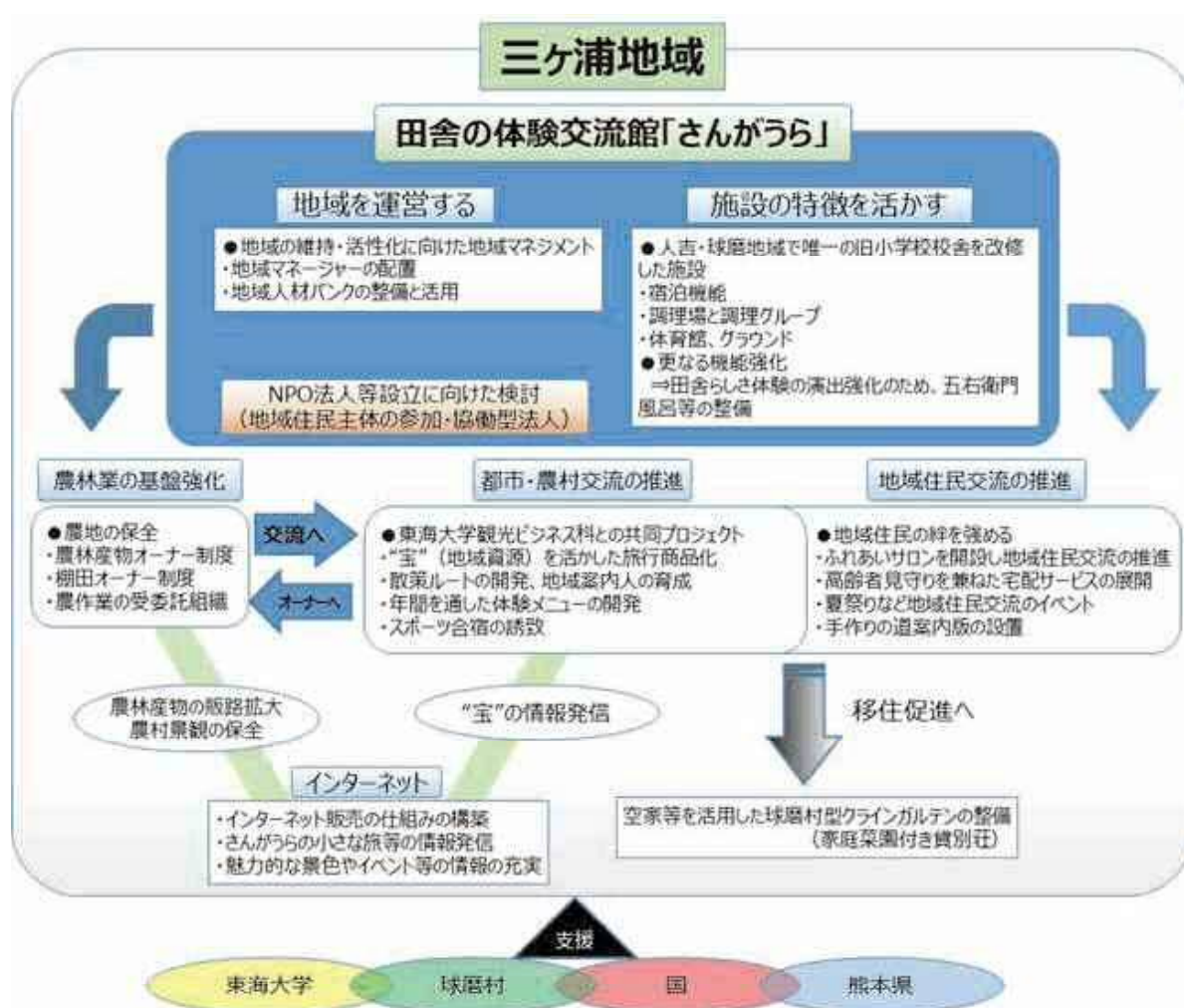


図2. 絆の里づくり計画のコンセプト図

2. むらづくりの推進体制

「さんがうら」運営委員会は、球磨村、施設代表、各区長・女性代表、地域団体(老人会等)、球磨村グリーンツーリズム研究会、球磨村棚田保存会等により構成され、施設を利用した地域イベントや都市農村交流に係わる各種体験イベント等の開催を地域ぐるみで支える体制になっている。

また、「さんがうら」の運営及び活用に当たっては、球磨村観光協会、球磨村ふるさと振興公社、球磨村観光案内人協会、大学等が連携・実践組織として支援に加わっている。



図3. 絆の里づくり計画の組織図

3. むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

(1) 農林業体験メニューの充実と山村空間の価値の発信

「さんがうら」の活動は、宿泊・飲食業をベースとしながらも、さまざまな農林業体験、食の加工体験、野外体験等を企画・開催している。農林業体験メニューは棚田の再生、地域農林産物の販路拡大、地域資源の発掘と宝としての磨き上げ等を目的として、多様な体験メニューが開発・実践されてきた。交流人口を増加させただけでなく、山村空間が備え持つ様々な価値をホームページや SNS 等で効果的に発信している。

棚田での田植え・稲刈り体験、梨・イチゴ・柿・梅・栗等の収穫体験、タケノコ掘り体験、そば打ち体験、シイタケの駒打ち体験、山菜採りツアー等が年間を通して開催されている。これら体験の指導には、地域住民、生産農家、球磨村棚田保存会、JA 梨部会、球磨村農愉会(若手新規就農者グループ)等の多様な主体が協力・支援している。



写真1. 山菜採りツアーの様子



写真2. そば打ち体験の様子

(単位：人)

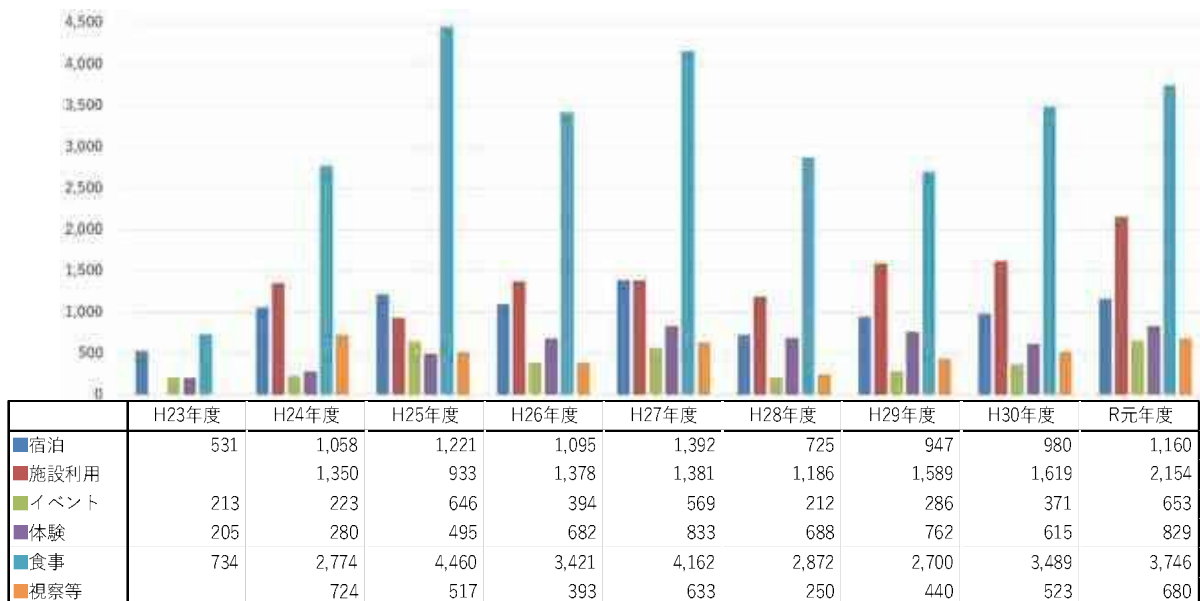


図4. 宿泊者数・体験者数の推移

(2) 棚田オーナー制度による棚田景観の保全

「さんがうら」に隣接する日本棚田百選に選定されている松谷棚田は、20～30a ほどの小規模な高齢の米生産農家が多く、戸あたり平均が約 15 枚にもなる狭小な圃場で耕作管理されている。この棚田景観を将来にわたって残そうと棚田オーナー制度を開発すると、宿泊者、体験参加者等の口コミで会員数は3年目には34組へと倍増した。高い金額で契約してくれるオーナーに生産者は感謝し生産意欲を高めている。

文化庁の文化的景観のパンフレット表紙に日本を代表する文化的景観として紹介された松谷棚田の保全に、棚田オーナー制度が確実に機能し始めている。



写真3. 松谷棚田の全景写真



写真4. 棚田オーナー制度

（３）地域食材や山の幸料理によるおもてなしと商品化

「さんがうら」の体験イベントは、農林業体験・ツアー・食のおもてなし等がセットになって、山村空間の商品化の起爆剤になっている。

食事を提供する女性グループ「山の食菜ならがわ」（以下「ならがわ」）では、食堂を舞台に農村カフェ・レストランを定期的に関業し、棚田ツアーや集落ツアーの実施時には、現地に出向き出張農村レストランを営業している。宿泊・体験時に食事を提供する際には、約 8 割の食材を地域内や村内の生産物とすることを目標として、地元農家の規格外生産物や高齢者の家庭菜園生産物を買上げている。ウド・タラの芽、コゴミ、タケノコ等の山村ならではの山の幸は 100% 地域住民から提供されることもあり、食材の品目・種別数において約 5 割以上は村内産により賄っている。

「ならがわ」は、村内各地の女性グループと連携して平成 30 年から毎年秋に「スローフードふえあ」を開催。また、地域食材の利用方法、伝統料理の調理法などをまとめた球磨村版家庭料理のレシピ本を発行するなど、その活動が認められ平成 30 年度にグループ員は県の「くまもとふるさと食の名人」に認定されている。



写真 5. スローフードふえあの様子



写真 6. 発行されたレシピ本

4. むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

（１）集落サポートの展開

集落サポート事業は令和元年度から本格的に開始された。高齢世帯の見守りを兼ねて、毎週水曜日の昼に地域住民への弁当配達・惣菜販売が行われており、当初は少なかった弁当予約も開始から 1 か月後には予約が 3 倍以上に増えた。高齢者の独居世帯や二人暮らし世帯が弁当配達や惣菜販売を楽しみに待っている。

交通弱者や買い物弱者に支援するために、「さんがうら」の西側玄関ロビーに村指定のゴミ袋、トイレットペーパー、洗剤等の生活用品を置くミニショップが令和 2 年度に開設され、住民の来店や移動販売時の配達に対応できる態勢を整えている。

また、地域農家のホームページ開設の支援のほか、「さんがうら」独自の通販サイトを開設し、地域農



写真 7. 移動販売・配食の様子



写真 8. さんがうらミニショップ

産物の販路拡大と地域農家の所得向上に貢献している。村初の Wi-Fi 設置が「さんがうら」で、村全域での地域づくりに資する情報ネットワークの構築に「さんがうら」が貢献している。

（２）交流体験イベントへの地域ぐるみの支援と生きがい創出

集落行事・イベントの体験プログラム化が、地域住民の同意を得てスムーズに組み込まれ実施されるに至った。廃校によって小学校の児童相手の交流がなくなり地域住民が抱いた喪失感は、新たな都市農村交流イベントへの支援によって一掃されることになった。高齢者や名人の活躍の場が確保され、地域ぐるみの協力体制が再構築された。

どんどや、門松づくり、吊るし柿づくり、コンニャクづくり、味噌づくりなどの体験イベントへの支援は、高齢者の生きがい創出につながっている。田舎の体験交流の名にふさわしいプログラムが年間を通して数多く実施され、地域の高齢者や女性が伝統の技や自慢の技を披露し活躍している。



写真9. 左から、どんどや、門松づくり体験、吊るし柿づくり体験の様子、コンニャクづくり体験

（３）地域資源の観光コンテンツ化と DMO 機能の発揮

山村空間の商品化と観光コンテンツ化が、熊本市内の複数の大学と連携して成果を上げている。大学生を巻き込んだ活動は、地域住民にとって地域を見直す絶好の契機になった。地域資源を発掘し宝として磨き上げる体制が、大学と連携することにより構築され、多言語パンフレット、里山さんぽマップ、地域資源マップ、地域紹介リーフレット等など多くの成果物が製作された。



写真10. 棚田 22 選ガイドブック

DM (Destination Management) すなわち着地型観光を軸とした地域づくり法人(DMO)「一般社団法人・くまむら山村活性化協会」が平成 31 年 2 月に設立された。「さんがうら」内で「くまむら地域再生協議会」が果たしてきた役割を、今後は当該法人が球磨村全域で果たすことになっている。



写真11. 地域資源マップ

付記）令和2年7月 熊本豪雨災害～被害の爪痕と復興への歩み～

令和2年7月4日、未明から昼ごろにかけて、九州北部地方の上空に巨大な線状降水帯が発生。局地的・集中的に長時間降り続いた記録的な大雨は、熊本県南部で甚大な被害をもたらし、このたび農林水産大臣賞を受賞された「田舎の体験交流館さんがうら運営委員会」の活動拠点となる球磨村でも大きな被害を受けました。

災害から数ヶ月経ちましたが、一日も早い生活再建を目指し現在も復旧・復興は続いています。



被害の爪痕

時間当たり100mmを超える雨により、日本三大急流の一つ球磨川とその支流を含めた広範囲の堤防はあつという間に決壊・氾濫し、沿岸を中心に土砂崩れや浸水被害が発生しました。被害は河川沿岸部にとどまらず、近隣市町村の市街地一帯にまで及び、深いところでは5mを超える浸水深を記録しました。

球磨村でも、家屋は屋根まで浸水、JRや国道は崩落して交通網は遮断、水道や電気等インフラも断絶し、多くの住民が生活基盤を失いました。

<人的被害>

死者	行方不明者
25	0

<建物被害>

(令和2年9月28日現在)

全壊	大規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊
339棟	31棟	60棟	1棟	41棟



被災状況（住宅浸水）

<インフラ等被害>

(令和2年8月31日現在)

種別	被害件数	被害額(千円)
村道	30 路線 166 箇所	4,326,039
橋梁	8 橋梁	10,010,000
河川	17 河川 67 箇所	491,274
林道	22 路線 133 箇所	959,000
農地	810 箇所 90ha	2,300,000
農業用施設	207 箇所	1,774,000



被災状況（国道の崩落）



被災状況（落橋）

※被害の数値は、球磨村の被害状況調査の数値を引用

復興への歩み

新型コロナウイルス感染症の影響で、県外からのボランティアは受入れ不可、さらに連日続く35℃を超える猛暑と台風の接近。そのような中で、県内の有志、ボランティアの協力を得ながら、住民たちによる復興は始まっています。

被災した住民を支援するため「支え合いセンター」が開設し、専門スタッフによる個別訪問も始まりました。専門スタッフによる訪問は、各種情報のお知らせや生活再建に向けた聞き取りだけでなく、被災者の孤立防止のための見守りにも繋がっています。



支え合いセンターの活動

◆球磨村の今



整備された仮設住宅（左：ムービングハウス 右：木造）

※10月31日、仮設住宅の建設完了に伴い村内全ての避難所は閉鎖されました。

災害から数ヶ月経ちましたが、一日も早い生活再建を目指し、インフラをはじめ現在も復旧・復興は続いています。

「田舎の体験交流館さんがうら」においても、被災当初から避難者の受け入れや支援物資の拠点機能を果たしており、買い物が困難な村民のため、移動販売もいち早く再開しています。

～ トピックス ～

先日、豪雨で流出した「球磨村消防団第4分団詰所」の看板が、遠く離れた対馬から121日ぶりに帰還するという嬉しいニュースがありました。



農林水産大臣賞受賞

いちりやま ち く すいしんきょうぎ かい
一里山地区ふるさとづくり推進協議会

(宮崎県 みやざきし 宮崎市)

～シバザクラを通したむらづくり～

■地域の沿革と概要

一里山地区は、宮崎市高岡町浦之名にある久木野集落と小田元集落の2集落からなり、宮崎市の西端に位置し、市の中心部から約30kmのところにある。

一里山地区のある高岡町浦之名の人口は、1,336人で、65歳以上の人口割合が45.1%となっており、年々、高齢化や人口減少が進んでいる。

農業形態としては、標高190mの高台に畑地帯が広がっており、茶を中心に多様な野菜や樹木苗木等の栽培のほか、繁殖牛や肥育牛、養鶏といった畜産業が行われている。特に茶は、西の霧島連峰から吹き下ろす冷たい山風と、東の日向灘から吹く暖かい海風による寒暖差でできる美味しい「一里山茶」として、地元の名産品となっている。



図1. 位置図

1. むらづくりの動機・背景

高齢化や若者の流出に伴う人口減少に加え、旧高岡町が平成18年に宮崎市と合併したことにより、地域住民の中に、一里山地区が取り残されてしまうのではないかとという危機感が芽生えたことが、協議会設立のきっかけだった。

自分たちの地域を何とか盛り上げていきたいという気持ちから、久木野自治会、小田元自治会の役員で話し合いを重ねた末、元々、地区の女性数人が自宅の玄関先に植栽していたシバザクラに着目。2集落まとまってシバザクラの植栽を通して地区をPRしていくという方針を打ち立て、平成19年に「一里山地区ふるさとづくり推進協議会」を設立した。

以後、一里山地区を広く知ってもらうために、シバザクラの植栽を始め、「九州一のシバザクラの里」を目指し、美しい農村景観を活かしたむらづくりを行っている。

地区データ

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| ①所在地：宮崎県宮崎市高岡町浦之名 | ②地区の規模：集落集合体（2集落） ※R2.3.31現在 |
| ③総人口：1,336人 | ④総世帯数：101戸 |
| ⑤農家戸数：36戸 | ⑥主要農産物等：茶、樹木苗木、施設きゅうり、飼料作物 |



写真1. 一面に植栽されたシバザクラ

2. むらづくりの推進体制

(1) 組織体制

協議会は平成 19 年に設立。久木野集落と小田元集落の全 101 世帯がメンバーであることに加え、そのうち約 2 割の世帯に属する 21 名が役員を務めており、地区全体で主体的にむらづくりに取り組む体制が整っている。

役員構成は、男性 20 名、女性 1 名。年

齢層は 30 代から 90 代と幅広く、会長等の中心役員は主に 50 代から 60 代が担っている。久木野集落と小田元集落の両自治会の役員、消防団長、地元土地改良区の理事、民生児童委員等から組織され、それぞれの職業は、農家をはじめ、地元建設業者や会社員等、多岐にわたり、役員を通じて多様な団体と連携・協調している。

また、毎月、協議会の役員会を開催し、地区の課題や活動内容を協議しており、合意形成・意思決定の仕組みが確立されている。

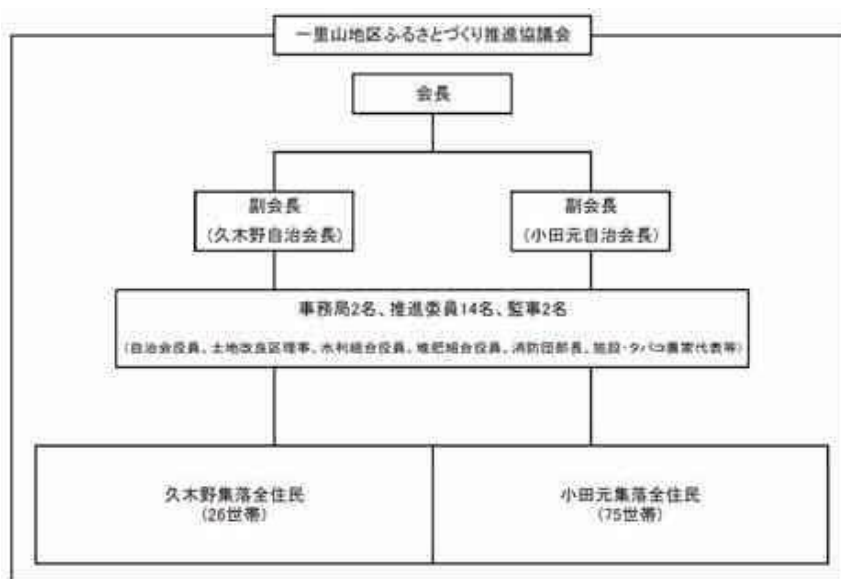


図2. 推進体制図

（２）組織の運営費

活動の財源としては、国の「多面的機能支払交付金」を主に活用。また、農地以外の部分においても、宮崎市の「美しい農村景観支援事業」により、地区全体の農村景観保全活動に対する補助金を受けており、それらの支援を有効に活用しながら、農村景観保全活動を中心としたむらづくりを継続している。

3. むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

（１）シバザクラの植栽を通した地元農林業のPR

協議会では、シバザクラの植栽を通したむらづくりを行っており、毎年3月下旬から4月上旬頃にかけて開催する「シバザクラまつり」では、物産コーナーを設置し、地元の名産品である「一里山茶」のほか、シバザクラの苗、ツツジやスギ、ヒノキ等の苗木等、地元の農産物を販売している。

この物産コーナーは毎年大盛況となっており、売れ行きも良いため、地区の高齢者の中には、この物産コーナーで農産物を出品するために、小規模ながらも農業を続けている方も存在する。

また、地区のPRのために協議会で作成したパンフレットにおいても、「一里山茶」等を紹介し、地元農産物の知名度アップを図っている。



写真2. シバザクラまつりでの農産物販売



写真3. 協議会作成パンフレット

（２）農地の維持・保全活動

協議会の活動として、農地の畦畔や荒廃農地の草刈り、水路の泥上げ等の保全活動を行っている。活動の際には、住民全員が総出で協力して取り組んでいる。

また、一里山地区は茶の栽培が盛んであり、一部の圃場では有機栽培に取り組んでいる。農薬を使用しない有機栽培では、害虫対策が肝心となるが、協議会により草刈り等の保全活動を実施することで、荒廃農地の抑止や、地区内の雑草の繁茂が抑えられ、害虫の発生抑止にもつながる等、農業をするうえでの環境改善も図られている。



写真4. 重機での農地の維持・保全活動



写真5. 綺麗に保全がなされた農地

（3）農家民宿「一里山園」

一里山地区には、宮崎市内において第1号で唯一の農家民宿である「一里山園」がある。「一里山園」では、地元農産物をふんだんに使った料理で宿泊客をもてなし、農業体験のほか、そば打ちやピザ作り等も体験でき、県内外はもとより、国外からの観光客からも人気である。

「一里山園」と協議会が連携してイベントを実施することもあり、協議会とともに、農業農村である一里山地区の活性化を担っている。

4. むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

（1）シバザクラの植栽活動及びシバザクラまっりの開催

協議会では、シバザクラの植栽活動を行っており、毎年3月下旬から4月上旬にかけて、ピンクや白のシバザクラが、茶畑の広がる一里山地区を彩る。

シバザクラの植栽活動は、元々、平成10年頃から、地区の女性有志数人が、農道の景色を通行者に楽しんでもらおうと自宅周辺に植栽を始めたことがきっかけである。

その後、平成19年に協議会を結成し、本格的な植栽を始め、50人の植栽ボランティアを募り、沿道や農地の法面等、地区内全体に植栽の範囲を広げていき、現在は、毎年、約15万本のシバザクラを植栽している。

また、シバザクラを見ながら周遊するルートをシバザクラロードと称し、案内看板を作成す



写真6. 協議会作成案内看板

ることで、地域への交流人口増加を図っている。

平成20年からは、毎年、満開を迎える3月下旬から4月上旬にかけて1週間程度、「シバザクラまつり」を開催し、名産品である茶等の地元農産物を販売する物産コーナーを設置。ウォークラリー等のイベントを併せて実施した年もあり、年々盛況となっている。現在は、県外客を含め、期間中に約1万人の見物客が訪れるまでの人気イベントとなっている。



写真7. シバザクラロードの風景



写真8. シバザクラまつり

（２）農村景観保全活動を通じた地域のコミュニティ強化

農道両側に約2km続くシバザクラの管理には、植栽活動だけでなく、除草等の維持管理も必要である。また、見物客が気持ちよく過ごせるよう、地区全体の環境美化活動にも取り組む必要があり、これらには多くの人手が欠かせない。

そのため、これまで共に活動することのなかった久木野集落と小田元集落の両自治会が、協議会の設立を機に、協力して管理を始めるようになった。現在は、毎月、協議会の役員会を開催し、地区の課題や活動内容を協議している。また、定期的に農道の草刈りや水路の泥上げ作業、地区の清掃作業を実施し、年間を通して、住民一丸となり景観保全活動を行っている。

さらに、年々シバザクラの見物客が増えている中で、住民総出でまつりの準備や、交通誘導等を行うことで、住民の絆も深まっていき、当初はあくまで環境づくりが目的の活動であったが、今では地域のコミュニティ強化に寄与している。このことが、地域の若者の愛郷心育成につながっており、若手農家からは「みんなで団結して活動ができるこの地区にとどまって農業がしたい」という声が聞かれるなど、担い手の確保にも確実に貢献している。



写真9. 住民一丸となった景観保全活動

（３）先進地としての研修の受入れ、各種表彰

これらの活動が評価され、協議会は「平成 24 年度 第 18 回宮崎市花のまちづくりコンクール 最優秀賞」、「平成 27 年度 第 25 回全国花のまちづくりコンクール 優秀賞」、「平成 28 年度 宮崎県地域づくり顕彰 奨励賞」を受賞している。

また、美しい農村景観を利用したむらづくりの先進地として、県外のグリーン・ツーリズムやまちづくり関係団体の視察研修の受入れも行っている。



写真 10. 協議会の活動をまとめた看板
（視察受入れ時等に利用）

農林水産大臣賞受賞

たかたむら いいんかい
高田村づくり委員会みなみさゆうしゅうし
(鹿児島県 南九州市)

～夢の里たかた 地域に根差したむらづくり～

■地域の沿革と概要

鹿児島県の南西部、薩摩半島の南部に位置する南九州市は、平成 19 年 12 月に旧揖宿郡額娃町、旧川辺郡知覧町及び川辺町が合併し誕生した市で、鹿児島市の南西約 30 km にあり、南薩地域の中心部に位置している。

市の基幹産業は農業で、茶、さつまいも、大根などが生産され、特に茶は、栽培面積・生産量とも市町村単位で日本一の産地である。また、伝統地場産業である「川辺仏壇」は、国の伝統的工芸品の指定を受けるなど、全国でも有数の高い技術と歴史を有している。

南九州市川辺町の中心地から 3 km ほどに位置する「高田」は、永里川流域にあり、西方に藤野原台地を擁している。高田村づくり委員会は、10 自治会で構成する地縁的な任意団体であり、当地区では、名水百選及び水の里百選に選定された豊かな水を活用した水田農業や、「かわなべ牛」として商標登録されている黒毛和牛などの畜産を主体とした大規模経営体が育成されている。また、県内各地の墓石や井堰などの石材に使われる良質な石が産出され、江戸期より高田石工の郷として石切場が栄えていた地域である。



図 1. 位置図



図 2. 高田区の人口・世帯数の推移

1. むらづくりの動機・背景

高田地区の藤野原台地では、昭和 46 年度からほ場整備が開始され、畜舎の建設や水田を活用した飼料作物の生産が進み、畜産を主体とした大規模経営農家が育成され

地区データ

- | | | |
|--------------------|-------------------------|-------------|
| ①所在地：鹿児島県南九州市川辺町高田 | ②地区の規模：集落集合体（10 集落） | ※R2.3.31 現在 |
| ③総人口：762 人 | ④総世帯数：367 戸 | |
| ⑤農家戸数：75 戸 | ⑥主要農産物：水稻、大豆、さつまいも、飼料作物 | |

分散していた耕作者毎の農地を集約し経営の効率化を図るため、平成6年に「藤野原農用地利用組合」が設立され、農地の交換分合に取り組んだことを契機に、平成10年に話し合い活動の母体となる「高田村づくり委員会」（以下「村づくり委員会」という。）が結成された。村づくり委員会を中心に、地域農業のシステム化の推進、住みよい明るい集落環境づくりを目標に、「むらづくり活性化計画」が策定され、県の推進する新・農村振興運動の重点地区に指定された。この計画に基づき、ほ場整備、集落環境整備を進めるとともに、地元小学校の食農教育支援や世代間交流、伝統芸能の継承などの活動にも取り組んできた。

その後、高齢化や担い手の減少が進んでいることへの危機感から集落営農に取り組むため、平成19年に「高田営農生産組合」が設立され、勉強会や検討会を重ね、平成21年に水田農業・畜産を主体とした地域農業の重要な担い手となる集落営農法人として「農事組合法人土里夢たかた」（以下「（農）土里夢たかた」という。）に移行させている。

また、村づくり委員会では、地域のみ集落の維持は困難であると考え、「むらづくりは人づくり」の理念のもと、交流人口の増加や新たな人材確保に向け、多様な主体と連携したむらづくり活動を地域住民が楽しみながら積極的に取り組んでいる。

2. むらづくりの推進体制

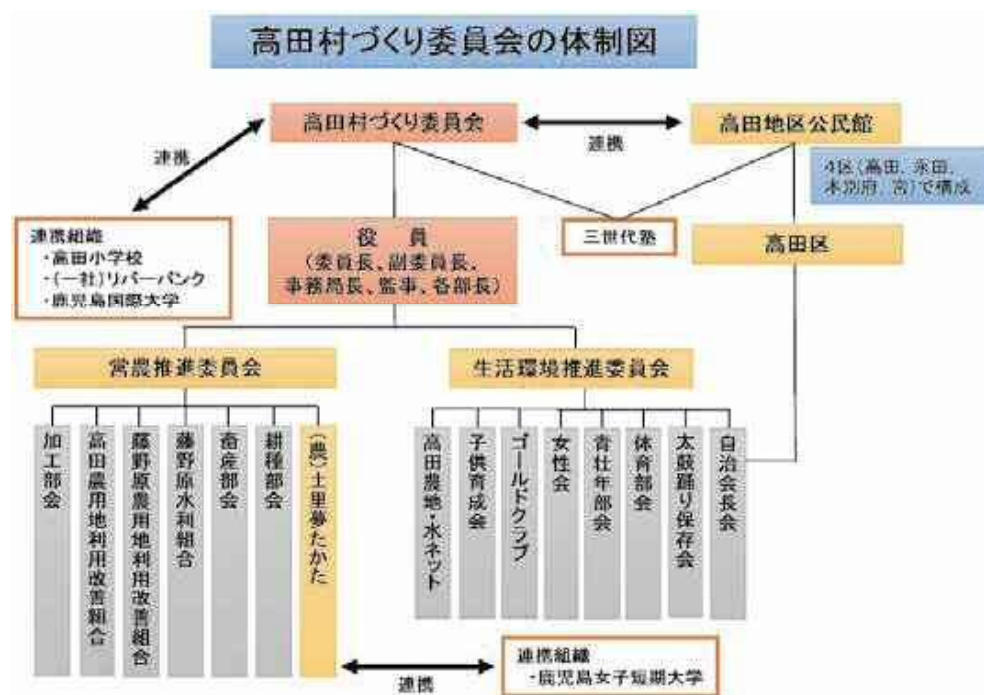


図3. むらづくりの体制

※ 役員会で全体的な調整活動や企画を立案。役員は互選となるが自治会との連携を図る観点から副委員長は区長が担う。役員会の下に7部会で構成する「営農推進委員会」と8部会で構成する「生活環境推進委員会」があり、委員会と各部会が連携して各種事業を実施。

村づくり委員会では、「子どもは地域の宝」という青少年育成のスローガンのもと、高田小学校と連携して教育支援に関わっている。米や野菜作りなどを通じた食農教育で、小学生が育てた農作物は地区内外の人々と交流する秋の収穫祭に提供されている。また、地域の文化や歴史を体験し実践する場として、児童、保護者、高齢者の三世代の組織と連携して共に学ぶ「高田三世代塾」を平成14年から毎月開催している。塾では、そば打ちや伝統芸能「太鼓踊り」など地域の食や文化を継承しながら、子ども達へ地域のバトンをつなぐ活動を行っている。

さらに、都市農村交流を図るため、都市部の消費者と連携して、田植え、稲刈り、みそ作りなどの体験を企画するとともに、鹿児島女子短期大学と連携して、さつまいも、大豆の生産や農産物を活用した加工品開発を行っている。

また、リバーバンク森の学校（旧長谷小学校廃校跡地）を拠点として地域づくりに取り組んでいる「一般社団法人リバーバンク」と連携して、共催する「森の収穫祭」や全国的な野外フェスティバルである「グッドネイバース・ジャンボリー」では、伝統芸能である「太鼓踊り」などを披露するなど、来場者に高田の魅力を発信してファンづくりを進めている。

さらに、地区在住の鹿児島国際大学教授やその学生と連携して、空き家の良さを見直し活かす視点で改修を行う「空き家対策プロジェクト」を展開している。村づくり委員会が空き家調査や家主との調整活動を行うことにより、移住者の定住・定着を支援している。



写真1. 高田三世代塾（太鼓踊りの伝承）



写真2. 都市農村交流（田植え）



写真3. 短大生と連携、作物栽培加工プロジェクト



写真4. 森の学校での収穫祭の企画運営



写真5. 大学と連携した「空き家対策プロジェクト」での空き家調査



3. むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

（1）むらづくりと一体的に取り組む「（農）土里夢たかた」による地域農業の維持・発展

「地域資源を生かし、集落営農によるコスト低減・機械化による労力軽減を図り、地域農業を発展させていく」ことを目指して、平成 21 年に「（農）土里夢たかた」として法人化された。法人の役員を村づくり委員会の役員が兼務しており、むらづくりと一体的に取り組む体制となっている。

水田農業を主体にスタートした経営は、大型機械の利用による地区内外での飼料作物の農作業受託に取り組み、平成 28 年からは地区内の廃業した酪農家の畜舎を利用して乳用牛の育成事業を開始するなど、経営の多角化を図ることにより、地域農業の担い手となっている。さらに、法人の事業拡大に対応して労務環境を整え、「農の雇用事業」の活用により、若者 4 人を雇用している。ほ場・畜舎での作業や各種研修会への参加により技術習得の支援を行いながら、若者が意欲をもって働ける環境づくりに努め、地域農業の後継者の育成に取り組んでいる。



図4. (農)土里夢たかたの経営内容

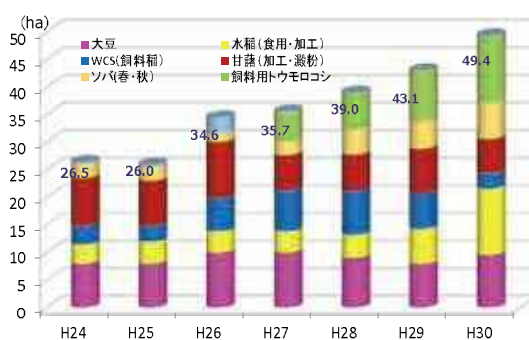


図5. 生産面積の推移

（2）スマート農業導入による新たなチャレンジ及び人材育成

令和元年から国のスマート農業加速化実証プロジェクトを活用して、産学官連携により中山間地域における水田の高度利用技術省力化と乳用牛育成管理省力化に取り組み、その効果を実証するなど、スマート農業を導入した新たな営農にチャレンジしている。プロジェクトの実施をできるだけ若者に任せ、若手の自覚や責任感を醸成することで次世代の人材育成にも努めている。



写真6. 自動操縦田植え機で作業時間を省力化



写真7. 牛舎監視システムによる牛舎滞在時間の削減と見回り回数の減少



写真8. ドローンを活用した省力化と農薬防除

（３）むらづくりにおける女性の役割発揮と所得向上～「そば処案山子^{かかし}」の運営～

村づくり委員会加工部の女性達が地域で生産された大豆を活用して押し大豆やみそなどに加工し、道の駅等で販売している。

さらに、平成 28 年には、農協出張所跡地を活用して「そば処案山子」をオープンし、飲食店のない高田において、高齢者、若者など住民の交流の場となっている。現在、週 2 回、地域の女性達が地元産の手打ちそばや大豆加工品の販売を行っており、今後は、女性の知恵と技術を生かして営業日を増やし、地元の農産物の付加価値を高め、更なる所得向上を目指している。



写真9. 「そば処案山子」で女性たちが役割発揮

表 1. そば処案山子の売上推移

(単位：円)

年 度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
案山子売上げ	1,759,374	2,908,771	2,461,357	2,048,481
道の駅等での販売	919,377	761,451	710,970	634,506

4. むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

（１）食農教育や交流活動による地域コミュニティの活性化と高田のファンづくり

高田小学校と共催で行う「高田かがやきフェスタ」は、地域内外から多くの人々が訪れ、交流の機会となっている。また、「高田三世代塾」では、子ども達へ郷土愛の継承や、高齢者の生きがい活動の場となっており、世代を超えた地域コミュニティの活性化にもつながっている。

このような交流活動や前述の多様な主体と連携したむらづくりの取組みにより、鹿児島市内の若い夫婦が高田で働きたいと移住し、「(農)土里夢たかた」の社員として働くなど、新規就農者や移住者の増加につながっている。



写真 10. 育てた野菜で作った料理をふるまう子どもたち（高田かがやきフェスタ）

（２）空き家対策プロジェクトによる移住促進

空き家対策プロジェクトと連携した取組みにより、平成 29 年以降、新たに 4 家族 10 人が移住している。村づくり委員会では、移住者が地域に馴染めるよう常に声掛けを行っており、移住者は太鼓踊りや地域の音楽グループ、空き家対策の作業メンバーに参加するなど、地域に溶け込んでいる。服飾デザイナー、グラフィックデザイナーなど「多様な移住者」が、今後、地域活性化を担う新たな人材となることが期待されている。



写真 11. 地区外（大分県、鹿児島市、霧島市）からの多様な人材が移住

表 2. 移住者の推移

年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年（予定）
移住者数	1 家族 1 人	1 家族 3 人	2 家族 6 人	1 家族 3 人

（３）地域資源の磨き上げ ～高田の命水、石切場～

高田には、閉山した「高田石切場」やその近隣に昔からの「水汲み場」があり、村づくり委員会では、この地域資源の磨き上げに取り組んでいる。「水汲み場」を「高田の命水」として観光スポットに整備したことで、観光客が増加するとともに、「水汲み募金箱」の設置により自主財源の確保にもつなげている。

また、荘厳な雰囲気のある「高田石切場」では、地元出身の女性彫刻家が在籍する東京学芸大学の主催で「国際彫刻シンポジウム」が開催され、各国からの来訪者を村づくり委員会が「おもてなし」することで、国内外へ高田の魅力発信を行っている。現在は、石切場での音楽会の開催などを計画している。



写真 12. 地域資源「高田の命水」



写真 13. 著名な彫刻家の作品を通して石切場の存在を情報発信



写真 14. 彫刻家と地区住民との交流（国際彫刻シンポジウム）

九州農政局長賞受賞

で たかしま
やっтарう de 高島ながさきし
(長崎県 長崎市)

～地域・企業・大学連携による珊瑚ツーリズムの創造～

■地域の沿革と概要

長崎市高島町の高島は、長崎市中心部から南西海上 14km に位置し、通称軍艦島(正式名称 端島)に最も近い有人離島である。島北部に位置する高島炭鉱跡「北溪井坑跡(ほっけいせいこうあと)」が 2015 年 7 月に世界文化遺産となった「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として登録された。住民の就業状況は、小売りや運搬等のサービス業、医療や教育をはじめとする公的な分野が多数を占め、この他、漁業者や炭鉱閉山対策で導入された長崎市水産センター高島事業部や高島農園の職員等で構成されている。

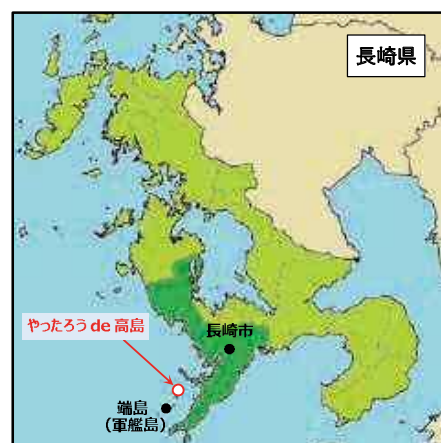


図 1. 位置図

1. むらづくりの動機・背景

周囲わずか 6.4 km の小さな島は、かつては日本の近代化を支えた炭鉱の町であり、端島と合併した昭和 30 年当時の人口は 1 万 7 千人に迫る人口密度日本一の炭鉱の町として大いに栄えた。しかし、戦後のエネルギー革命の中で、その主役は石炭から石油へ移り、急速な出炭量の減少を経て、昭和 61 年に高島炭鉱は閉山となった。その後は急激な過疎化が進行し、令和元年 12 月現在人口 361 名、高齢化率は 51% という状況である。

石炭という主幹産業を失った高島町では、「炭鉱を観光に」をスローガンに交流人口の拡大による島の再生を図ることとし、海水浴場・釣り公園・温浴施設を建設、さらには前述の世界文化遺産を活かした交流人口拡大対策に取り組んでいる。

地区データ

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------|
| ①所在地：長崎県長崎市高島町 | ②地区の規模：島全域（1 集落） | ※R 元.12.31 現在 |
| ③総人口：361 人 | ④総世帯数：249 戸 | |
| ⑤漁業経営体数：8 | ⑥主要漁種：イセエビ、カマス（刺網）ヒラメ、カサゴ（養殖） | |

2. むらづくりの推進体制

平成 21 年に発足した「やったろう de 高島」は、会員数 11 名（島内在住者が 7 名（うち移住者 3 名）、長崎市街地在住者 4 名）で構成する高島町唯一のグリーン・ツーリズム団体であり、サンゴを活かしたシュノーケリング体験の提供を核として、高島の持つ自然を活かし、地域団体、大学、企業、行政と幅広く連携して交流人口の拡大に取り組んでいる。



図 2. むらづくりの推進体制

3. むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

(1) 高島フルーティトマトの認知度向上

高島町では、海運会社である崎永海運(株)トマト事業部が経営するトマト農園（高島農園）で生産される高糖度トマト「高島フルーティトマト」が地域特産品として県内に知られている。そこで、収穫時期となる 1 月末から 5 月に収穫体験を行程に組み込んだエコツアーを「やったろう de 高島」が企画している。特に今季からは、ツアー参加募集の対象を長崎市内から福岡中心に切り替えたことで、参加者は 29 名に増加しており、「高島フルーティトマト」の更なる認知度向上が期待されている。

(2) ヒラメの消費拡大と来島者の満足度向上

長崎市水産センターが水産振興策として「ヒラメの陸上養殖」に取り組んでおり、

このヒラメを素材に「やったろう de 高島」が高島の名物料理を創作。来島者に提供する冬の味覚として「ヒラメしゃぶしゃぶ」や、醤油ではなくあら塩と香酸柑橘で食べる「ヒラメのかわり寿司」のメニューを創作している。それらのメニューは長崎市運営の宿泊施設「五平太」で提供されており、島内の観光、外食、宿泊事業者等が連携し、養殖ヒラメの消費拡大と来島者の満足度の向上に取り組んでいる。



写真1. エコツアーのチラシ

4. むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

(1) 体験メニュー提供等による交流人口の拡大

豊かな島の環境を活かした体験メニュー「シュノーケリングピクニック」を4月初めから11月末まで開催している。体験者年齢層は最年少1.5歳から最年長者80歳と幅広く、体験者が1名でもインストラクターが必ず同行して丁寧に対応することで、安全かつ感動的な体験を提供している。これが高島ファンの獲得に結び付き、体験者数は徐々に増加し昨年は1,205人となった。特に、福岡を中心とした県外からの来訪者が3/4超を占め関東圏や海外からの来客も含んでおり、高島での体験メニューが広く県外に認知されてきている。



図3. 令和元年度 体験者の内訳（総数 1,205名）

また、活動の幅を広げるため、長崎市内の各団体で構成する「長崎市グリーン・ツーリズム実行委員会」が令和元年度に発足し、「やったろう de 高島」が事務局として中心的な役割を担っている。本会は平和教育を柱とする長崎市の教育旅行受入れに、海・農村・山など豊かな自然や伝統的な産業体験などを加えることで、より幅広いメニューが提供できる本県の新たな観光振興の担い手を目指している。

(2) 次代を担う高島っ子の育成

福祉農園で収穫されたさつま芋等を子供達と一緒に調理・試食するイベントや、高島小中学校の授業の一環として、毎年「海の環境出前講座」を実施しており、「島の自然や生態」や「環境保全の重要性」、なにより「島を愛すること」を訴え、豊かな人間

教育の一翼を担っている。また、サンゴ生息調査等で連携する宮崎大学から講師を招き、「サンゴを中心に考える海の環境講習」、「サンゴの育成調査」の講演を島内で開催するなど、島民教育を進めている。

（３）漁場環境の維持・向上

「高島クリーン作戦」と銘打った海浜・海中清掃を毎年実施しており、海浜清掃には、高島小中校の生徒父兄や各地域団体を巻き込み、豊かな自然を皆で守るという島の一体感を生み出している。また、このような活動は、漁場環境の維持・向上といった地元への貢献として漁協にも高く評価されている。



写真2. 海中清掃の様子

（４）サンゴを核とした環境保全活動

宮崎大学深見教授グループと連携した生息調査で高島海水浴場内に34種のサンゴが自生していることを明らかにし、サンゴの環境保全を介して大学との連携関係を構築しており、宮崎大学教授とのサンゴ生息調査や海の環境講習会等をとおり、海洋環境保全に向けた島内外での理解増進と意識醸成に取り組んでいる。



写真3. 高島クリーン作戦

また、東京大学准教授、エム・エムブリッジ(株)、日本防触工業(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)等の産学との連携と西彼南部漁業協同組合の協力により、沖縄を除く日本本土地域初となるサンゴ育成装置の設置実証試験にも取り組んでいる。このような取組から、令和2年度の日本沿岸域学会全国大会が長崎市開催の運びとなり、「やっтарう de 高島」は活動報告を行うこととなっている。



2019年2月の講習会

写真4. サンゴを中心に考える海の環境講習会

「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」

豊かなむらづくり全国表彰事業

本事業は、農山漁村における集落、校区、市町村等を活動範囲とする団体の農林水産業を核とした生活・文化等を含む幅広い地域活動を対象に、農林水産省及び日本農林漁業振興会が昭和 54 年度から実施しています。

優良事例の表彰を行い、その業績発表等を行うことにより、むらづくりの全国的な展開を助長し、地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的としています。

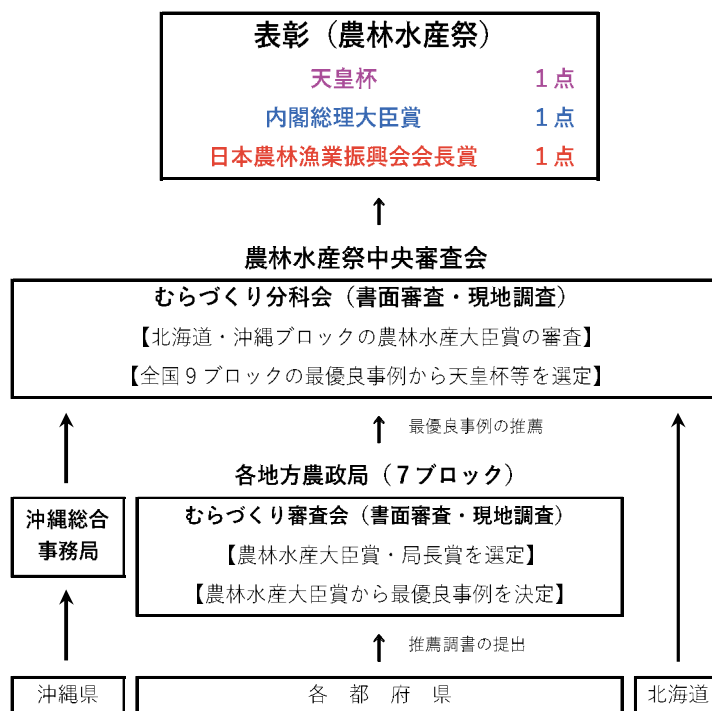
農林水産祭

農林水産祭は、農林水産省及び日本農林漁業振興会が、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、国民的な祭典として昭和 37 年から毎年 11 月 23 日の勤労感謝の日を中心に開催しています。

毎年、全国各地の農林水産関係団体が農林水産祭参加行事として開催する約 310 に及ぶ農林水産物の品評会・コンクール等において農林水産大臣賞を受賞した者の中から、農林水産祭中央審査委員会が 7 部門（農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくり）の天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を選定しています。

むらづくり部門では、「豊かなむらづくり全国表彰事業」において選定された農林水産大臣賞受賞団体のなかから天皇杯等が選定されます。

むらづくり部門の審査・表彰の流れ



写真，天皇杯



写真，農林水産祭式典

むらづくり部門のこれまでの三賞受賞一覧

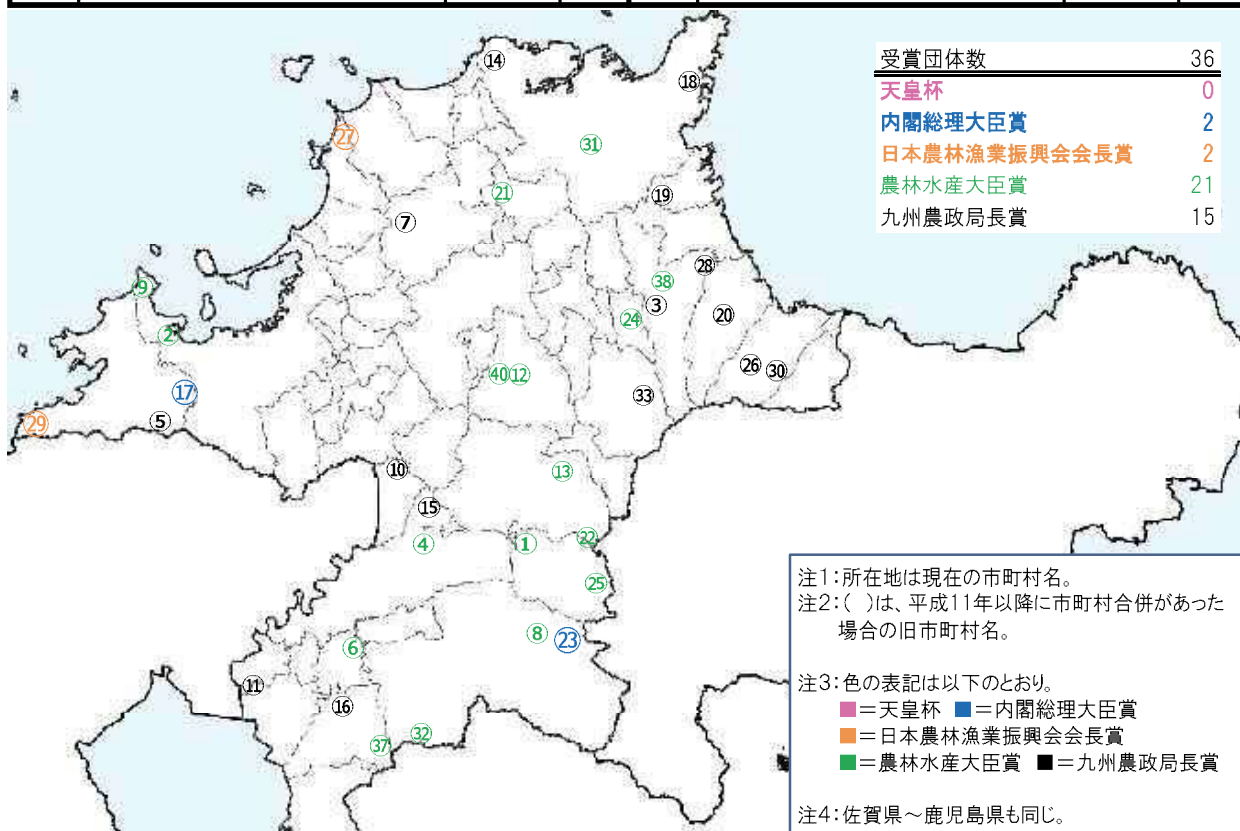
年度	天皇杯	内閣総理大臣賞	日本農林漁業振興会会長賞
昭和54年度	新しいむらづくり推進委員会 (愛媛県 伊方町)	根小屋集落連合会 (秋田県 北秋田市)	—
55年度	養生集落 (鹿児島県 屋久島町)	古見をよくする会 (岡山県 真庭市)	—
56年度	梓山集落 (長野県 川上村)	松神集落 (鳥取県 北栄町)	—
57年度	姥屋敷集落 (岩手県 滝沢村)	野田区 (愛知県 田原市)	—
58年度	東部地区振興協議会 (山形県 小国町)	新しいむらづくり推進会議 (栃木県 那須塩原市)	—
59年度	玖珠町山田地区 (大分県 玖珠町)	広船部落会 (青森県 平川市)	—
60年度	飯田集落 (鳥根県 益田市)	荷替部落会 (岩手県 久慈市)	—
61年度	大木区 (愛知県 豊川市)	小串自治会 (長崎県 新上五島町)	—
62年度	清助新田むらづくり委員会 (山形県 寒河江市)	八千代町コミュニティー推進委員会 (茨城県 八千代町)	—
63年度	猪塚村自治公民館連絡協議会 (宮崎県 猪塚村)	円城寺地区 (滋賀県 愛荘町)	尚向自治会 (岩手県 住田町)
平成元年度	熊地区活性化推進協議会 (静岡県 浜松市)	七軒地域づくり推進協議会 (山形県 大江町)	浅川生活環境改善実行委員会 (徳島県 海陽町)
2年度	上別府東部地区むらづくり振興会 (鹿児島県 南九州市)	大原地区 (鳥取県 倉吉市)	水と緑の村づくり推進会議 (福井県 大野市)
3年度	岩戸村づくり実行委員会 (長崎県 雲仙市)	福釜町内会 (愛知県 安城市)	下笹島部落会 (岩手県 洋野町)
4年度	国頭むらづくり委員会 (鹿児島県 和泊町)	小郷区 (岐阜県 中津川市)	零浦集落 (新潟県 佐渡市)
5年度	和光地区自治会 (岩手県 金ヶ崎町)	琵琶池村づくり推進協議会 (栃木県 大田原市)	大見集落 (熊本県 宇城市)
6年度	大塚むらづくり委員会 (鹿児島県 枕崎町)	西塩沢農村整備促進委員会 (長野県 立科町)	森藤むらづくり推進協議会 (徳島県 吉野川市)
7年度	三隅町上地区発展対策協議会 (山口県 長門市)	新怡土むらづくり推進協議会 (福岡県 糸島市)	西郷自治振興協議会 (和歌山県 かつらぎ町)
8年度	秋津野塾 (和歌山県 田辺市)	土呂部地区水芭蕉の郷づくり推進委員会 (栃木県 日光市)	菊永むらづくり推進委員会 (鹿児島県 南九州市)
9年度	南波多町農業振興協議会 (佐賀県 伊万里市)	大井平集落 (新潟県 津南町)	大和むらづくり会議 (鳥取県 鳥取市)
10年度	上場自治公民館 (鹿児島県 出水市)	農事組合法人 大甘野営農組合 (京都府 亀岡市)	晴田むらづくり推進協議会 (青森県 五所川原市)
11年度	石川郷中 (秋田県 八峰町)	(農業生産法人、有限会社)農業公園「信貴山のどか村」 (奈良県 三郷町)	西与賀地域実践協議会 (佐賀県 佐賀市)
12年度	正名字 (鹿児島県 知名町)	中石自治会 (秋田県 男鹿市)	常吉村づくり委員会 (京都府 京丹後市)
13年度	仁保地域開発協議会 (山口県 山口市)	星野村農業・農村を考える会 (福岡県 八女市)	舞岡ふるさと村推進協議会 (神奈川県 県横浜市)
14年度	大井沢区 (山形県 西川町)	夢ランド十町 (熊本県 和水町)	一木自治振興区 (広島県 庄原市)
15年度	綾織町地域づくり連絡協議会 (岩手県 遠野市)	小川区 (岐阜県 郡上市)	豊永開発振興会 (岡山県 新見市)
16年度	松本集落 (大分県 宇佐市)	農事組合法人 いくみ (静岡県 島田市)	上鹿妻第一地区協同組合 (岩手県 盛岡市)
17年度	渡慶次集落 (沖縄県 読谷村)	十和村おかみさん市 (高知県 四万十町)	あんずの里市利用組合 (福岡県 福津市)
18年度	ふき活性化協議会 (大分県 豊後高田市)	共栄地区を良くする会 (和歌山県 印南町)	中村集落 (秋田県 横手市)
19年度	伊座利の未来を考える推進協議会 (徳島県 美波町)	古座川ゆず平井の里 (和歌山県 古座川町)	福吉地域づくり推進協議会 (福岡県 糸島市)
20年度	鶴池地区農業振興会 (新潟県 上越市)	田沢湖牛鯨橋産産推進組合 (秋田県 仙北市)	川内野集落 (佐賀県 伊万里市)
21年度	小城町農産物直売所「はたの郷」 (佐賀県 小城市)	喜屋武集落 (沖縄県 糸満市)	坂之屋振興会 (鳥根県 雲南市)
22年度	下里農地・水・環境向上対策委員会 (埼玉県 小川町)	大野ヶ原開拓組合 (愛媛県 西予市)	特定非営利活動法人 かまえブルーーツリズム研究会 (大分県 佐伯市)
23年度	農事組合法人 宮守川上流生産組合 (岩手県 遠野市)	奥能登春蘭の里実行委員会 (石川県 能登町)	久富北区公民館 (鹿児島県 さつま町)
24年度	浄門の里づくり協議会 (岩手県 二戸市)	NPO法人 どうもんの会 (静岡県 掛川市)	現和校区 (鹿児島県 西之表市)
25年度	田代自治会 (宮崎県 えびの市)	農事組合法人 フーム大島 (富山県 射水市)	波瀬むらづくり協議会 (三重県 松阪市)
26年度	自得地区環境保全会 (青森県 弘前市)	染ヶ岡地区環境保全協議会 (宮崎県 高鍋町)	宮地集落 (岐阜県 郡上市)
27年度	三芳町川越いも振興会 (埼玉県 三芳町)	須佐地区一本釣船団 (山口県 萩市)	農事組合法人 南権垣営農組合 (奈良県 天理市)
28年度	地域共同組合無茶々園 (愛媛県 西予市)	大野地区公民館 (鹿児島県 壺水市)	ゆかい村風間浦餃子ブランド戦略会議 (青森県 風間浦村)
29年度	阿室校区活性化対策委員会 (鹿児島県 宇検村)	からい直売所出荷者運営協議会 (愛媛県 内子町)	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 (福島県 二本松市)
30年度	本寺地区地域づくり推進協議会 (岩手県 一関市)	特定非営利活動法人 ゆうきハートネット (岐阜県 白川町)	中津川区公民館 (鹿児島県 さつま町)
令和元年度	西江上区 (沖縄県 伊江村)	一般社団法人 竹田文化共栄会 (福井県 坂井市)	由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」 (山形県 鶴岡市)
2年度	高根フロンティアクラブ (新潟県 村上市)	湯原集落協定 (宮城県 七ヶ宿町)	農事組合法人 ゆめ野山 (奈良県 五條市)

注1:むらづくり部門の日本農林漁業振興会会長賞は昭和63年度に新設

注2:太字・着色は九州の受賞団体

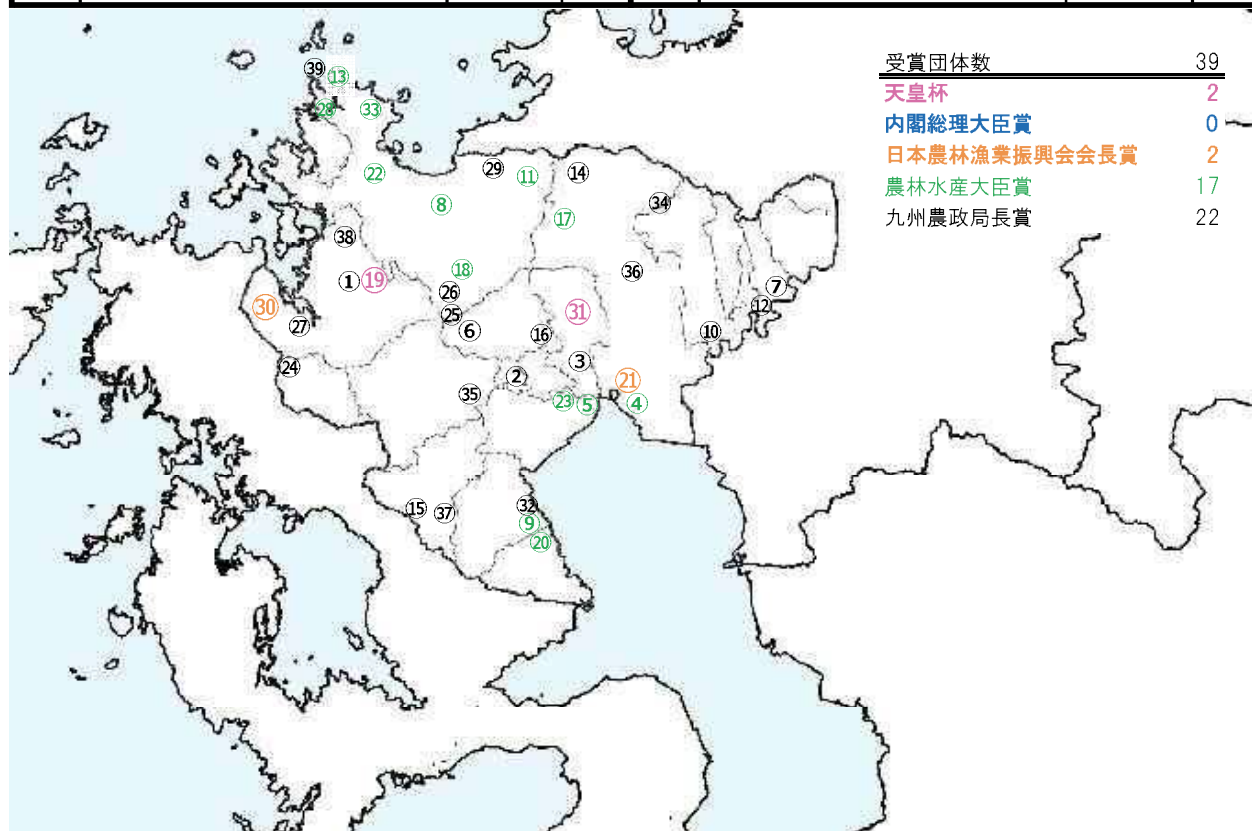
受賞団体一覧表（福岡県）

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	末石集落	うきは市（吉井町）	①	12年度	杷木町農林業等総合振興対策協議会	朝倉市（杷木町）	②②
55年度	元岡地区	福岡市	②	13年度	星野村農業・農村を考える会	八女市（星野村）	②③
56年度	犀川町崎山区	みやこ町（犀川町）	③	14年度	赤村特産物センター運営協議会	赤村	②④
57年度	住みよい弓削をつくる会	久留米市（北野町）	④	15年度	小塩んホテルの里づくり協議会	うきは市（浮羽町）	②⑤
58年度	雷山地区	糸島市（前原市）	⑤	16年度	岩屋地区活性化協議会	豊前市	②⑥
59年度	前津地区	筑後市	⑥	17年度	あんずの里市利用組合	福津市（津屋崎町）	②⑦
60年度	日吉地区	宮若市（若宮町）	⑦	18年度	豊津町営農生産組合	みやこ町（豊津町）	②⑧
61年度	棕谷地区	八女市（星野村）	⑧	19年度	福吉地域づくり推進協議会	糸島市（二丈町）	②⑨
62年度	西浦地区	福岡市	⑨	20年度	合河ゆず祭り実行委員会	豊前市	③⑩
63年度	西小田営農組合	筑紫野市	⑩	21年度	合馬校区まちづくり協議会地域振興部会	北九州市	③⑪
平成元年度	紅粉屋地区村づくり推進協議会	大川市	⑪	22年度	松尾百笑村	八女市（立花町）	③⑫
2年度	宮小路果樹組合	嘉麻市（嘉穂町）	⑫	23年度	上津野村づくり推進協議会	添田町	③⑬
3年度	高木むらおこし対策協議会	朝倉市（甘木市）	⑬	24年度	—	—	—
4年度	有毛地区	北九州市	⑭	25年度	—	—	—
5年度	富多区	大刀洗町	⑮	26年度	—	—	—
6年度	瀬高町地域農業振興協議会	みやま市（瀬高町）	⑯	27年度	伍位軒集落	みやま市（山川町）	③⑰
7年度	新怡土むらづくり推進協議会	糸島市（前原市）	⑰	28年度	くまわり会	みやこ町（犀川町）	③⑱
8年度	猿喰地区	北九州市	⑲	29年度	—	—	—
9年度	等覚寺地区	苅田町	⑳	30年度	小野谷行政区	嘉麻市（嘉穂町）	④⑰
10年度	いわまる共和国	築上町（椎田町）	㉑	令和元年度	—	—	—
11年度	新入農業農村活性化実行委員会	直方市	㉒	2年度	—	—	—



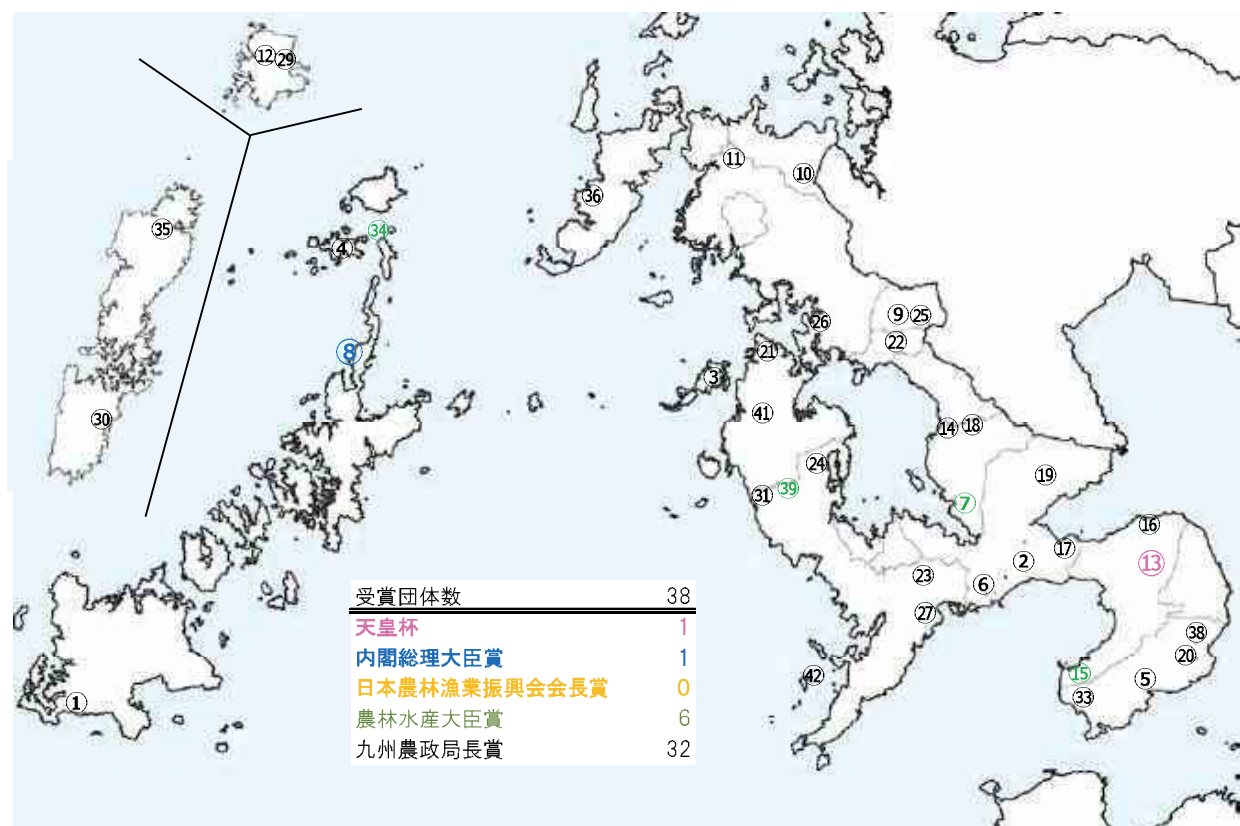
受賞団体一覧表（佐賀県）

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	南波多町農業振興協議会	伊万里市	①	12年度	大良むらぐるみ運動実践協議会	唐津市	②②
55年度	畑ヶ田集落	大町町	②	13年度	福富地域むらぐるみ運動実践協議会	白石町（福富町）	②③
56年度	練ヶ里集落	小城市（牛津町）	③	14年度	岳集落	有田町（西有田町）	②④
57年度	大野集落	佐賀市（東与賀町）	④	15年度	蕨野地区	唐津市（相知町）	②⑤
58年度	福富町北区	白石町（福富町）	⑤	16年度	JA佐賀松浦逢地の里直販所利用運営協議会	唐津市（相知町）	②⑥
59年度	西多久地区拠点地域実践協議会	多久市	⑥	17年度	脇野集落	伊万里市	②⑦
60年度	市原地区	みやき町（北茂安町）	⑦	18年度	桃山天下市会	唐津市（鎮西町）	②⑧
61年度	半田地区	唐津市	⑧	19年度	大白木活力あるむらづくり推進委員会	唐津市（七山村）	②⑨
62年度	半田地区	鹿島市	⑨	20年度	川内野集落	伊万里市	③⑩
63年度	千代田町小森田地区	神埼市（千代田町）	⑩	21年度	小城町農産物直売所「ほたるの郷」	小城市（小城町）	③⑪
平成元年度	七山村振興協議会	唐津市（七山村）	⑪	22年度	嘉瀬の浦区	鹿島市	③⑫
2年度	ここほれジュッタンボ会	みやき町（三根町）	⑫	23年度	玄海みなとん里株式会社	唐津市	③⑬
3年度	加部島地区	唐津市（呼子町）	⑬	24年度	佐賀北部地域おこしフェスティバル実行委員会	佐賀市・神埼市（富士町・三瀬村・音振村）	③⑭
4年度	羽金山振興会	佐賀市（富士町）	⑭	25年度	橘町まちづくり推進協議会	武雄市	③⑮
5年度	清水集落	嬉野市（嬉野町）	⑮	26年度	株式会社そよかぜ館	佐賀市（大和町）	③⑯
6年度	北坊集落	多久市	⑯	27年度	吉田地区	嬉野市（嬉野町）	③⑰
7年度	杉山集落	佐賀市（富士町）	⑰	28年度	波多津町まちづくり運営協議会	伊万里市	③⑱
8年度	伊岐佐上集落	唐津市（相知町）	⑱	29年度	松島集落	唐津市（鎮西町）	③⑲
9年度	南波多町農業振興協議会	伊万里市	⑲	30年度	—	—	—
10年度	伊福集落	太良町	⑳	令和元年度	—	—	—
11年度	西与賀地域実践協議会	佐賀市	㉑	2年度	—	—	—



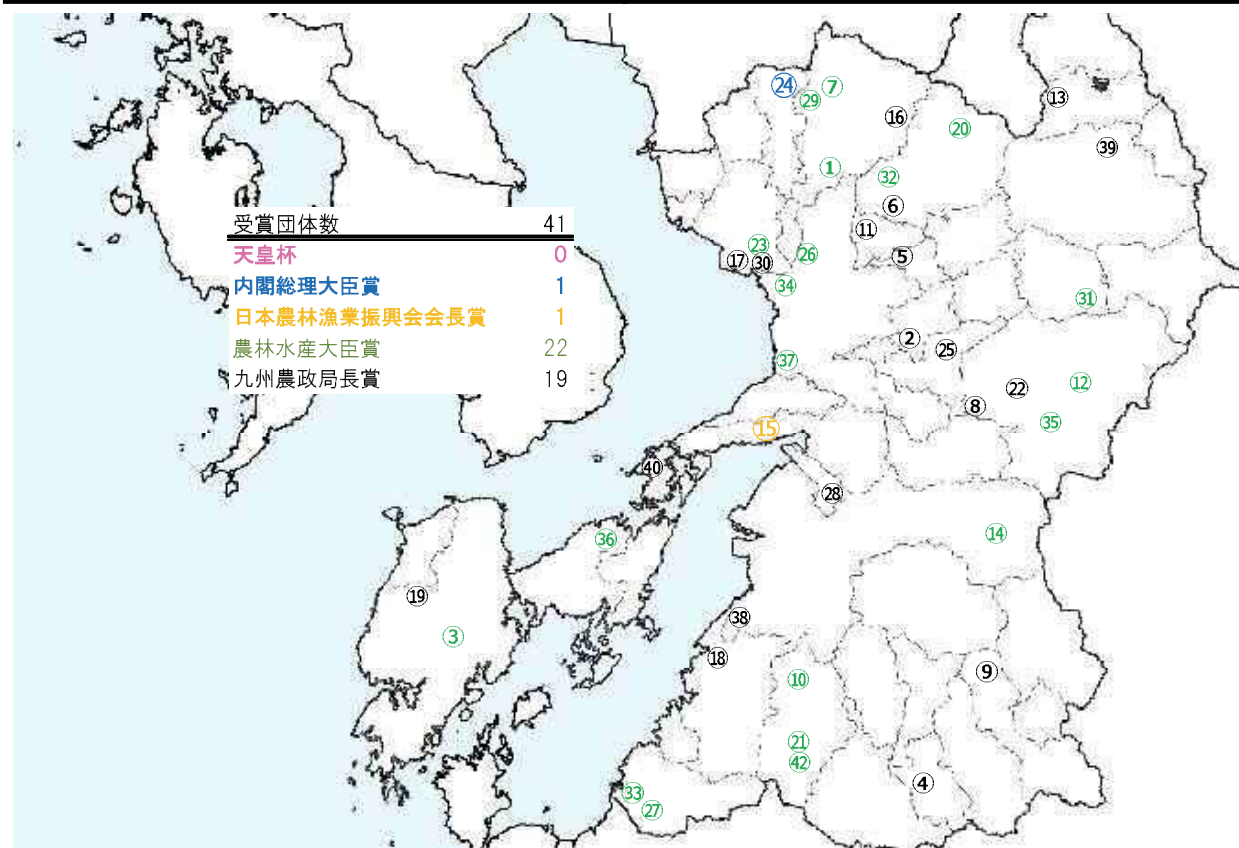
受賞団体一覧表（長崎県）

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和 54年度	大宝肉用牛生産組合	五島市 (玉之浦町)	①	12年度	中山・五反田里づくりの会	川棚町	②②
55年度	有喜地区むらづくり推進委員会	諫早市	②	13年度	現川物産館じげもん市	長崎市	②③
56年度	大島町むらづくり運営委員会	西海市 (大島町)	③	14年度	「きんかい味彩市」生産者の会	長崎市 (琴海町)	②④
57年度	緑を守る小値賀町青年連合会	小値賀町	④	15年度	鬼木郷地区	波佐見町	②⑤
58年度	北有馬町むらづくり推進委員会	南島原市 (北有馬町)	⑤	16年度	わくわくふれあい市利用組合	佐世保市	②⑥
59年度	開名囲組	諫早市 (飯盛町)	⑥	17年度	中尾地区農業振興協議会	長崎市	②⑦
60年度	鈴田地区開発振興会	大村市	⑦	18年度	—	—	
61年度	小串郷自治会	新上五島町 (新魚目町)	⑧	19年度	芦辺湯岳生産組合	杵岐市 (芦辺町)	②⑨
62年度	川内郷振興会	波佐見町	⑨	20年度	内山地区むらづくり代表者会	対馬市 (厳原町)	③⑩
63年度	田ノ平免	松浦市	⑩	21年度	大中尾棚田保全組合	長崎市 (外海町)	③⑪
平成 元年度	根引農事研究会	佐世保市 (江迎町)	⑪	22年度	—	—	
2年度	惣清地区生活改善グループ	杵岐市 (芦辺町)	⑫	23年度	後登龍活性化委員会	南島原市 (加津佐町)	③⑫
3年度	岩戸村づくり実行委員会	雲仙市 (瑞穂町)	⑬	24年度	特定非営利活動法人おちかアイランドツーリズム協会	小値賀町	③⑬
4年度	松原地域掘り起こし実行委員会	大村市	⑭	25年度	佐護ヤマネコ稲作研究会	対馬市 (上県町)	③⑭
5年度	南串山町新農業研究会	雲仙市 (南串山町)	⑮	26年度	根獅子集落機能再編協議会	平戸市	③⑮
6年度	高田むらづくり実行委員会	雲仙市 (瑞穂町)	⑯	27年度	—	—	
7年度	田尻名干拓部落	諫早市 (森山町)	⑰	28年度	一般社団法人南島原ひまわり観光協会	南島原市	③⑯
8年度	野岳山麓農村活性化協議会	大村市	⑱	29年度	大中尾棚田保全組合	長崎市 (外海町)	③⑰
9年度	折山集落	諫早市 (高来町)	⑲	30年度	—	—	
10年度	赤仁田営農組合	南島原市 (西有家町)	⑳	令和 元年度	さいかい元気村協議会	西海市	④①
11年度	よかところ実行委員会	西海市 (西海市)	㉑	2年度	やったろうde高島	長崎市 (高島町)	④②



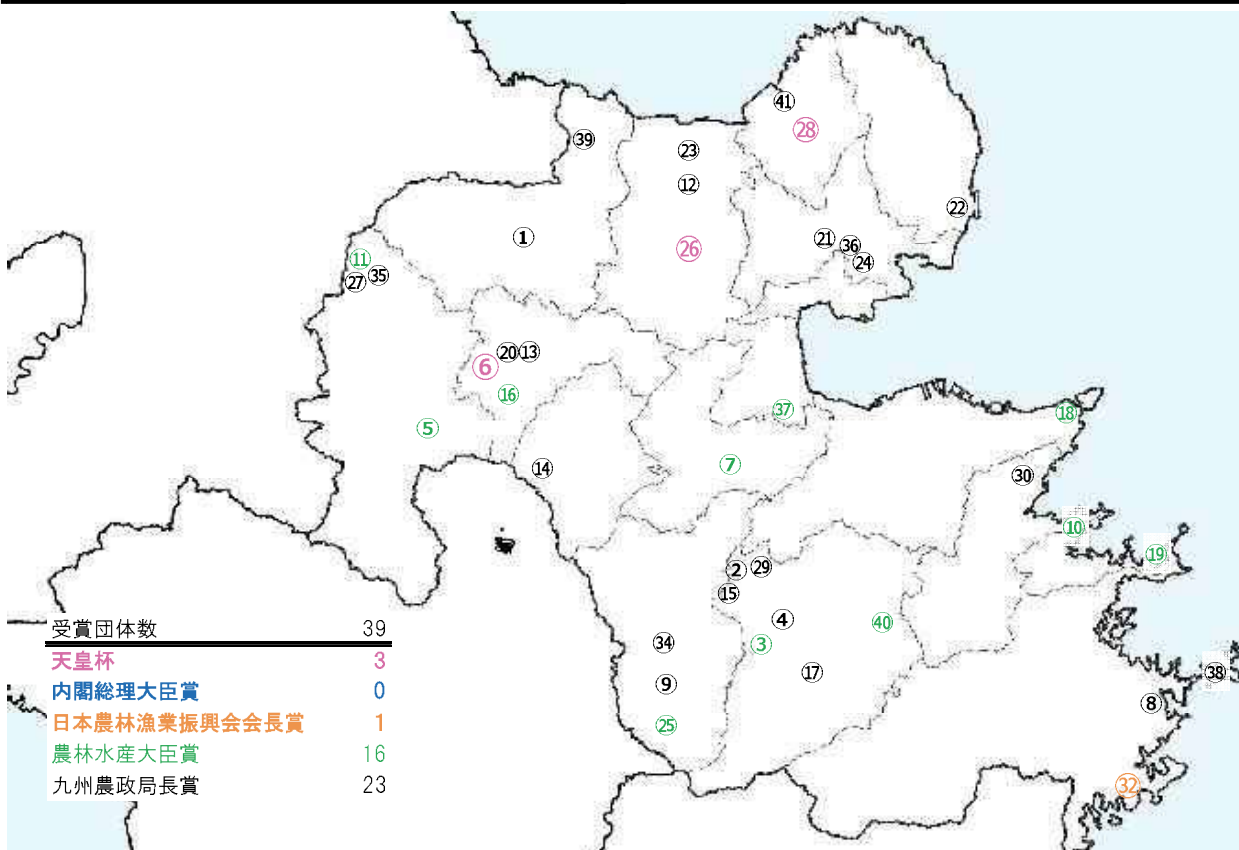
受賞団体一覧表（熊本県）

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	馬見塚振興会	山鹿市	①	12年度	入佐地区	山都町（矢部町）	②②
55年度	小池・秋永地区	益城町	②	13年度	尾田地区	玉名市（天水町）	②③
56年度	碓石地区	天草市（新和町）	③	14年度	夢ランド十町	和水町（三加和町）	②④
57年度	清水地区	あさぎり町（上村）	④	15年度	八勢地区	御船町	②⑤
58年度	堀川地区	菊陽町	⑤	16年度	西里とれたて市会	熊本市	②⑥
59年度	福本地区	菊池市	⑥	17年度	村丸ごと生活博物館頭石	水俣市	②⑦
60年度	小坂地区	山鹿市	⑦	18年度	吉野梨研究同志会	氷川町（竜北町）	②⑧
61年度	島木地区	山都町（矢部町）	⑧	19年度	平小城活性化協議会	山鹿市	②⑨
62年度	柳野集落	多良木町	⑨	20年度	天水農産物直売所協議会「てんすい郷〇市」	玉名市（天水町）	③⑩
63年度	球磨村森林組合	球磨村	⑩	21年度	両併地区	南阿蘇村（白水村）	③⑪
平成元年度	江良区	合志市（西合志町）	⑪	22年度	七城ホテルを育てる会	菊池市（七城町）	③⑫
2年度	熊本清和農業協同組合	山都町（清和村）	⑫	23年度	村丸ごと生活博物館越小場地区	水俣市	③⑬
3年度	中湯田集落	南小国町	⑬	24年度	東門寺集落	熊本市	③⑭
4年度	五家荘平家の里管理組合	八代市（泉村）	⑭	25年度	菅地域振興会	山都町（矢部町）	③⑮
5年度	大見集落	宇城市（不知火町）	⑮	26年度	大浦地区振興会	天草市（有明町）	③⑯
6年度	阿佐古集落	山鹿市（菊鹿町）	⑯	27年度	天明環境保全隊	熊本市	③⑰
7年度	横島町特産物振興協会	玉名市（横島町）	⑰	28年度	NPO法人二見わっしょいファーム	八代市	③⑱
8年度	横居木集落	芦北町（田浦町）	⑱	29年度	手野名水会	阿蘇市（一の宮町）	③⑲
9年度	福連木地区	天草市（天草町）	⑲	30年度	上天草物産館さんばーる出荷協議会	上天草市	④⑩
10年度	鳳来地区	菊池市	⑳	令和元年度	—	—	—
11年度	毎床地区	球磨村	㉑	2年度	田舎の体験交流館さんがうら運営委員会	球磨村	④②



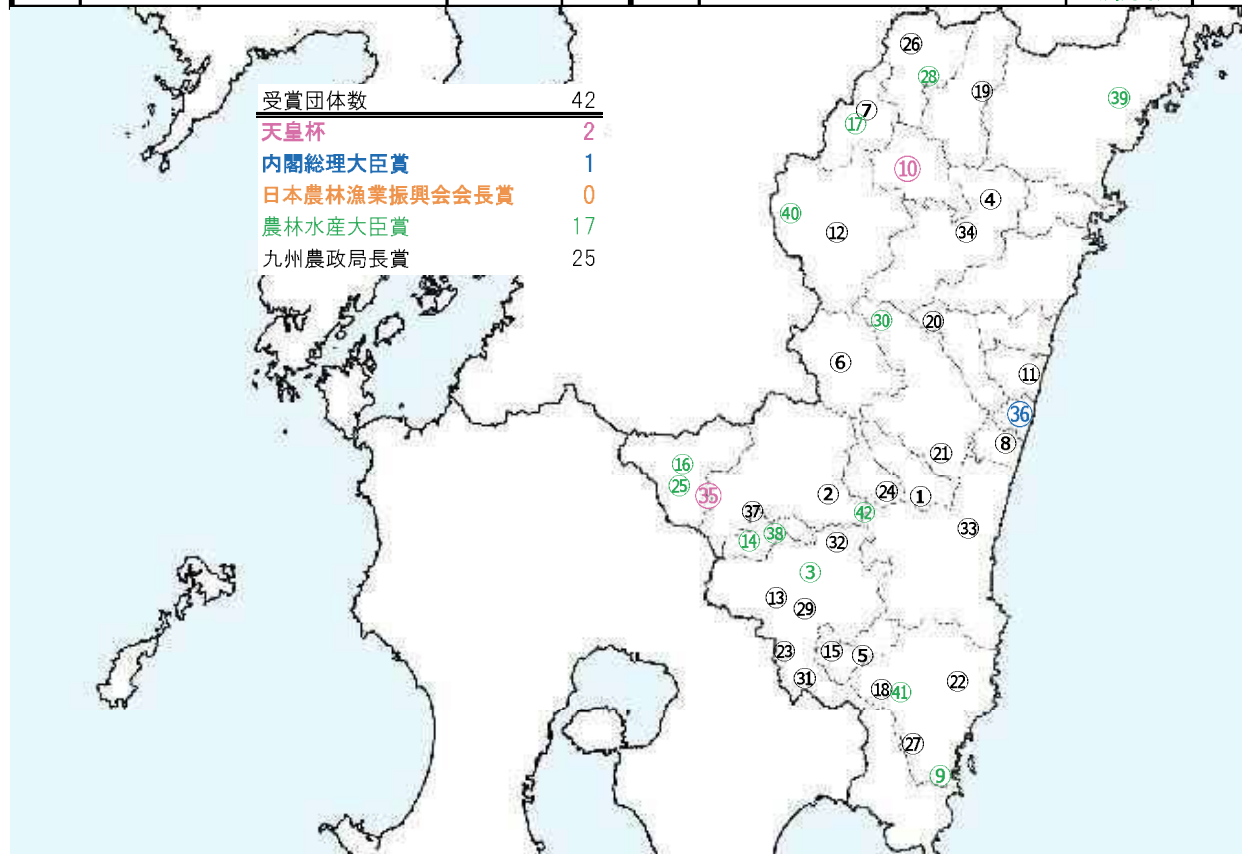
受賞団体一覧表（大分県）

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	鎌城酪農部	中津市 (耶馬溪町)	①	12年度	山口陽農会	国東市 (安岐町)	22
55年度	温見地区	豊後大野市 (朝地町)	②	13年度	下城井農用地改善組合	宇佐市	23
56年度	草深野集落	豊後大野市 (緒方町)	③	14年度	新庄むらづくり協議会	杵築市	24
57年度	津留農地利用組合	豊後大野市 (大野町)	④	15年度	九重野地区担い手育成推進協議会	竹田市	25
58年度	大山町農業協同組合	日田市 (大山町)	⑤	16年度	松本集落	宇佐市 (安心院町)	26
59年度	山田西区	玖珠町	⑥	17年度	大肥郷ふるさと農業振興会	日田市	27
60年度	住みよい豊かなむらにする会	由布市 (庄内町)	⑦	18年度	ふき活性化協議会	豊後高田市	28
61年度	大分県漁業協同組合米水津支店	佐伯市 (米水津村)	⑧	19年度	温見地区	豊後大野市 (朝地町)	29
62年度	荻町恵良原地区	竹田市 (荻町)	⑨	20年度	藤河内・元気なむらづくりの会	臼杵市	30
63年度	長日地区むらづくり推進協議会	津久見市	⑩	21年度	—	—	
平成元年度	大鶴地区	日田市	⑪	22年度	NPO法人かまえブルーーツリズム研究会	佐伯市 (蒲江町)	32
2年度	下矢部地区	宇佐市	⑫	23年度	—	—	
3年度	古後地区活性化委員会	玖珠町	⑬	24年度	農事組合法人紫草の里営農組合	竹田市	34
4年度	菅原自治会	九重町	⑭	25年度	農事組合法人小野谷	日田市	35
5年度	綿田地区自治会	豊後大野市 (朝地町)	⑮	26年度	農事組合法人こめ・こめ・くらぶ	杵築市 (山香町)	36
6年度	小田生き活き健康村実行委員会	玖珠町	⑯	27年度	内成の棚田とむらづくりを考える会	別府市	37
7年度	清川町林業研究グループ	豊後大野市 (清川町)	⑰	28年度	間越地区活性化推進協議会	佐伯市 (米水津村)	38
8年度	木佐上コミュニティ	大分市 (佐賀関町)	⑱	29年度	三光コスモス祭り実行委員会	中津市 (三光村)	39
9年度	深良津二世会	津久見市	⑲	30年度	農事組合法人芦刈農産	豊後大野市 (三重町)	40
10年度	山下を良くする会	玖珠町	20	令和元年度	農事組合法人グリーンファーム畑	豊後高田市	41
11年度	竜船蛟の里づくりの会	杵築市 (山香町)	21	2年度	—	—	



受賞団体一覧表（宮崎県）

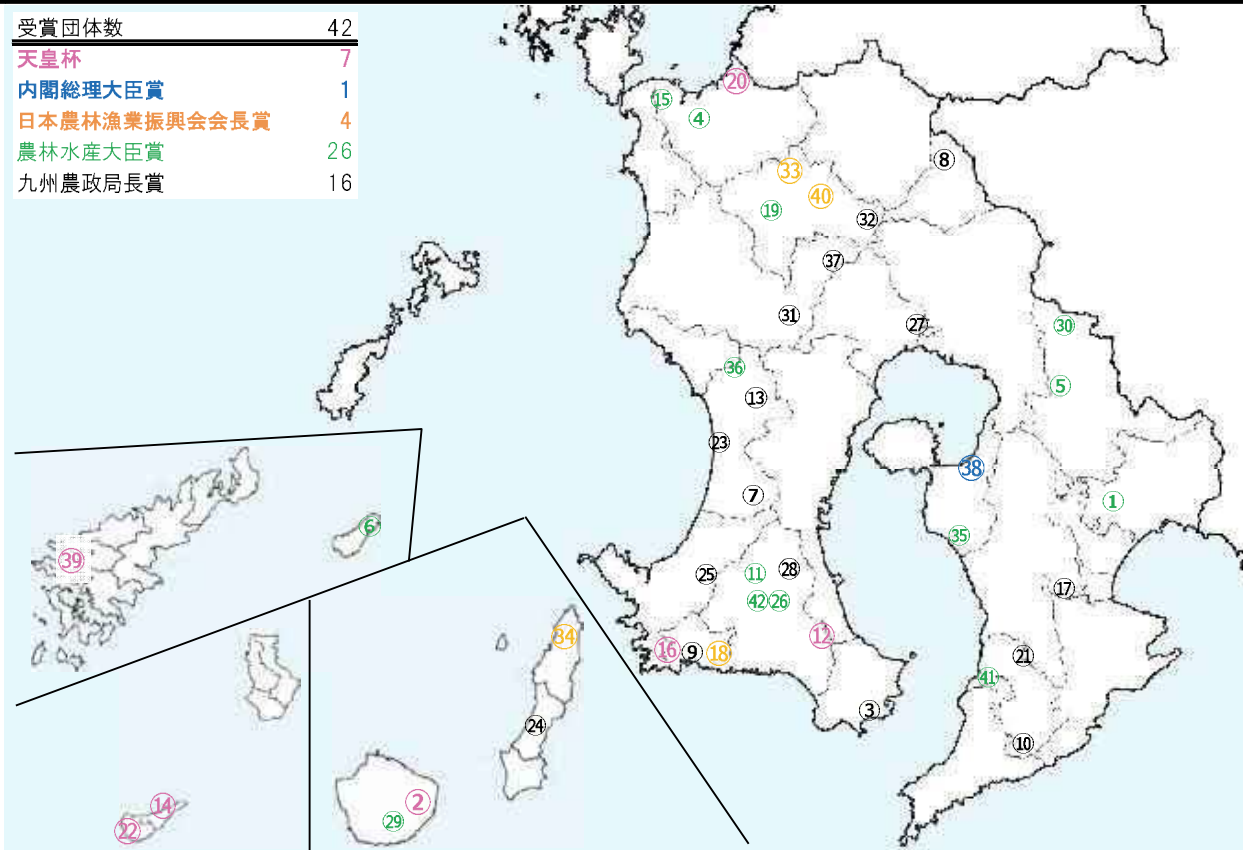
年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	国富町新農業振興対策協議会	国富町	①	12年度	大藤地区推進委員会	日南市（北郷町）	②②
55年度	内山集落	小林市（須木村）	②	13年度	横市農用地利用改善組合	都城市	②③
56年度	笛水集落	都城市（高崎町）	③	14年度	綾町有機農業実践振興会	綾町	②④
57年度	細宇納間公民館	美郷町（北郷村）	④	15年度	西長江浦むらづくり協議会	えびの市	②⑤
58年度	長田地区公民館	三股町	⑤	16年度	高千穂町下野西集落	高千穂町	②⑥
59年度	西米良果樹振興協議会	西米良村	⑥	17年度	南平宮農組合	日南市	②⑦
60年度	宮の原地区	五ヶ瀬町	⑦	18年度	五ヶ瀬村地区むらづくり協議会	高千穂町	②⑧
61年度	日置地区	新富町	⑧	19年度	薄谷むらづくり推進協議会	都城市	②⑨
62年度	新しい村づくり推進委員会	日南市（南郷町）	⑨	20年度	銀鏡むらづくり推進会	西都市	③⑩
63年度	諸塚村自治公民館連絡協議会	諸塚村	⑩	21年度	NPO法人正応寺こんだの会	都城市	③⑪
平成元年度	清水・孫谷農事振興組合	川南町	⑪	22年度	高崎町笛水地区活性化委員会	都城市（高崎町）	③⑫
2年度	桑の実生活改善グループ	椎葉村	⑫	23年度	下小松集落営農組合	宮崎市	③⑬
3年度	上南山田地区営農振興組合	都城市（山田町）	⑬	24年度	上野原地区集落営農組合	美郷町（西郷村）	③⑭
4年度	花堂むらおこしグループ	高原町	⑭	25年度	田代自治会	えびの市	③⑮
5年度	笠祇地区村づくり推進協議会	串間市	⑮	26年度	染ヶ岡地区環境保全協議会	高鍋町	③⑯
6年度	池島区	えびの市	⑯	27年度	北きりしま田舎物語推進協議会	小林市・高原町・えびの市	③⑰
7年度	宮の原むらづくり推進協議会	五ヶ瀬町	⑰	28年度	農事組合法人はなどう	高原町	③⑱
8年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市	⑱	29年度	川坂川を守る会	延岡市（北川町）	③⑲
9年度	鹿川集落	日之影町	⑲	30年度	焼畑蕎麦苦楽部	椎葉村	④⑰
10年度	中之又ふれあい里づくり協議会	木城町	⑳	令和元年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市	④⑱
11年度	石野田集落	西都市	㉑	2年度	一里山地区ふるさとづくり推進協議会	宮崎市（高岡町）	④⑲



受賞団体一覧表（鹿児島県）

年度	団体名	所在地		年度	団体名	所在地	
昭和54年度	蓬原中野小組合	志布志市（有明町）	①	12年度	正名字	知名町	22
55年度	麦生集落	屋久島町（屋久町）	②	13年度	扇尾公民館	日置市（日吉町）	23
56年度	浜児ヶ水区	指宿市（山川町）	③	14年度	野間下地区むらづくり委員会	中種子町	24
57年度	高尾野中間山集落	出水市（高尾野町）	④	15年度	舞敷野公民館	南さつま市（加世田市）	25
58年度	帯野地区	曾於市（財部町）	⑤	16年度	高田むらづくり委員会	南九州市（川辺町）	26
59年度	小野津地区	喜界町	⑥	17年度	小山田地区むらづくり委員会	始良町（加治木町）	27
60年度	永野地区	日置市（吹上町）	⑦	18年度	塗木むらづくり推進委員会	南九州市（知覧町）	28
61年度	川添地区	湧水町（吉松町）	⑧	19年度	原区むらづくり委員会	屋久島町（屋久町）	29
62年度	桜馬場地区	枕崎市	⑨	20年度	中谷地区むらづくり委員会	曾於市（財部町）	30
63年度	花瀬地区むらづくり推進協議会	錦江町（田代町）	⑩	21年度	大馬越地区コミュニティ協議会	薩摩川内市（入来町）	31
平成元年度	永田地区営農振興会	南九州市（川辺町）	⑪	22年度	永野区むらづくり委員会	さつま町（薩摩町）	32
2年度	上別府東部地区むらづくり振興会	南九州市（額姪町）	⑫	23年度	久富木区公民館	さつま町（宮之城町）	33
3年度	田代地区むらづくり振興会	日置市（東市来町）	⑬	24年度	現和校区	西之表市	34
4年度	国頭むらづくり委員会	和泊町	⑭	25年度	新城地区公民館	垂水市	35
5年度	青木地区	出水市（野田町）	⑮	26年度	高山地区公民館	日置市（東市来町）	36
6年度	大塚村づくり委員会	枕崎市	⑯	27年度	黒木地区コミュニティ協議会	薩摩川内市（祁答院町）	37
7年度	大迫むらづくり推進委員会	鹿屋市（串良町）	⑰	28年度	大野地区公民館	垂水市	38
8年度	菊永むらづくり推進委員会	南九州市（知覧町）	⑱	29年度	阿室校区活性化対策委員会	宇検村	39
9年度	時吉区公民館	さつま町（宮之城町）	⑲	30年度	中津川区公民館	さつま町（薩摩町）	40
10年度	上場自治公民館	出水市	⑳	令和元年度	宿利原地区公民館	錦江町（大根占町）	41
11年度	池田校区振興会	錦江町（大根占町）	㉑	2年度	高田村づくり委員会	南九州市（川辺町）	42

受賞団体数	42
天皇杯	7
内閣総理大臣賞	1
日本農林漁業振興会会長賞	4
農林水産大臣賞	26
九州農政局長賞	16



「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」を選定

令和2年度11月4日(水)に総理大臣官邸で有識者懇談会が開催され、「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定)に28地区及び4名が選定されました。

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」とは?

「強い農業」「美しく活力のある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信する取組みです。

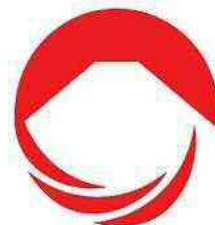
「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定されたら...

マルシェの参加や SNS での情報発信、ウェブサイトにおける選定地区のおすすめ商品の紹介等のメリットがあります。選定地区からは、メディアで紹介される機会が増加し、関係者の意欲向上や売上げの増加につながったなどの声も多数寄せられています。

◆「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第7回選定結果)

<コミュニティ部門:17 地区>

- けねべつ地域子育て支援ネットワーク(北海道 中標津町)
-  北海道美幌高等学校(北海道 美幌町)
- 観光農園アグリのおいらせ(青森県 おいらせ町)
- 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会(秋田県 三種町)
- 会津よつば農業協同組合猪苗代稲作部会(福島県 猪苗代町)
- 十石堀維持管理協議会(茨城県 北茨城市)
- はやぶさ未来クラブ(山梨県 山梨市)
- 小菅沼・ヤギの杜(富山県 魚津市)
- 小原 ECO プロジェクト(福井県 勝山市)
-  岐阜県立岐阜農林高等学校流通科学科(岐阜県 北方町)
- 榎前観光保全会(愛知県 安城市)
- 大和平野土地改良区(奈良県 橿原市)
- 裳掛地区コミュニティ協議会(岡山県 瀬戸内市)
-  株式会社秋川牧園と飼料用米生産者グループ(山口県 山口市)
- 木沢林業研究会(徳島県 那賀町)
- 愛媛県立土居高等学校情報科学部(愛媛県 四国中央市)
- 株式会社いとしのいとしま(福岡県 糸島市)



グランプリ

準グランプリ、個人賞

コミュニティ部門

関係者の連携による活動で地域に活力をもたらす取組み等

<ビジネス部門:11 地区>

- 網走ビール株式会社(北海道 網走市)
-  有限会社マルセンファーム(宮城県 大崎市)
- 伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」(静岡県 伊豆市)
- あがの衆(新潟県 阿賀野市)
- 桑名もち小麦協議会(三重県 桑名市)
- ニシオサプライズ株式会社(京都府 南丹市)
- 福良漁業協同組合(兵庫県 南あわじ市)
- 株式会社ウッドスタイル(島根県 松江市)
-  GOTTSO 阿波(徳島県 阿波市)
- 郷土の家庭料理 ひまわり亭(熊本県 人吉市)
- しろう農園株式会社(沖縄県 宮古島市)

ビジネス部門

事業化を通じて所得向上や雇用を生み出す取組み等

<個人部門:4名>

-  石垣 一子(秋田県 大館市) 小柳 繁(新潟県 新発田市)
- 笠間 令子(石川県 内灘町) 高橋 幸照(三重県 多気町)

個人部門

地域でリーダー的な活躍をしている者等

九州農政局においても、全国選定以外の優れた取組みについて、九州農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として5地区及び2名を選定しました。

◆九州農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定結果

＜コミュニティ部門：4地区＞

長崎県立諫早農業高等学校食品科学部（長崎県 諫早市） —長崎県農産物を用いた地域活性プロジェクト—
 蘇陽農場（熊本県 山都町） —女性が創る農福連携！多様な雇用で笑顔一杯—
 深見地区まちづくり協議会（大分県 宇佐市） —地域の未来 地域で考え 地域で行動—
 焼畑蕎麦苦楽部（宮崎県 椎葉村） —山は友達・命の源・続けることが力—

＜ビジネス部門：1地区＞

株式会社筑前町ファーマーズマーケットみなみの里（福岡県 筑前町） —食で筑前町を発信！&食べて応援！—

＜個人部門：2名＞

池田 大志（佐賀県 佐賀市） —地域資源を活かし農業を「農産業」へ—
 瀬川 知香（鹿児島県 南九州市） —農・食・旅・宿を繋ぎ、持続可能な観光を実現—

◆全国選定団体の紹介＜コミュニティ部門＞

株式会社いとしのいとしま

—地魚 BANK でうまい魚をこれからもずっと！—



地魚のみを使う海鮮丼



伝統漁法について学び旅する「うお旅」



九州大学の留学生を対象にしたワークショップ

農泊

伝統継承



＜概要＞

- ・ SNS 等を通して漁業が抱える課題を伝え、会員から資金・アイデア等を集め、新サービスを産み解決。
- ・ 「地魚博覧会」、「地魚運動会」等の開催を通じて、糸島の地魚の魅力を伝えることで、美しく伝統ある農山漁村を次世代に継承。

（成果）

- ・ 地魚を使った飲食店、加工品事業により、年間 3,700 万円の売上を達成（令和元年度）。
- ・ SNS 会員数は 100 人（平成 30 年度）から 300 人（令和元年度）に、出資金は約 60 万円（平成 30 年度）から約 200 万円（令和元年度）に増加。

◆全国選定団体の紹介＜ビジネス部門＞

郷土の家庭料理 ひまわり亭

—“食”でまちづくり・人づくり・元気づくり!!—



農泊実践者による食のレベルアップ



豪雨災害時のキッチンカーによる炊き出し



講演+食事+調理実習の三部研修

農泊



＜概要＞

- ・ 高齢者の見回りなどを行うボランティアグループからスタート。更に法人を設立して、自立した稼ぐ農山村コミュニティビジネスを実施。
- ・ 築 120 年の古民家を移築・改修し、郷土の家庭料理でもてなす農家レストランを開業し、食育や総菜の製造・販売も実施。

（成果）

- ・ 平成 28 年の熊本地震、令和 2 年の豪雨災害の際には、被災者への炊き出しや支援物資の配布等を実施。
- ・ 災害による売上減はあったものの、レストラン部門、お弁当・総菜部門、体験研修部門等において、一定の収益や参加者を確保。

※選定団体の取組み等については、農林水産省及び九州農政局のホームページをご覧ください。

農林水産省： <http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>

九州農政局： <https://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/discover/discover.html>

むらネット九州 37

令和2年度 むらネット九州
(豊かなむらづくりをめざして)

発行：九州農政局

編集：農村振興部 農村計画課

〒860-8527

熊本市西区春日2丁目10番1号 熊本地方合同庁舎

TEL：096-211-9111（内線 4611）

FAX：096-211-9812（農村振興部）

九州農政局むらづくりのページ▼

<http://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/murazukuri/murazukuri.html>

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。